



# LN 用 Infor Warehouse Mobility ユー ザーガイド

リリース 6.00.x

## 重要事項

本書に含まれる資料(あらゆる補足情報を含む)は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料(当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む)、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約(この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます)に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的(以下、「目的」という)として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲読に基づく権利、権原及び利益(すべての修正、翻訳または翻案を含む)は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは本書に含まれる資料を正確で完全なものとするべく注意を払っていますが、Inforは本書に含まれる情報が完全で、誤植やその他の誤りがなく、使用者の特定要件に合致するものであることを保証しません。したがって、Inforは、本書(あらゆる補足情報を含む)の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

## 商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

## 発行情報

リリース: Infor Factory Track 6.00.x

発行日: 2018年6月18日

ドキュメントコード: ft\_6.00.x\_ftlnwmug\_\_ja-jp

# 目次

<b>Warehouse Mobility</b> について.....	<b>7</b>
Infor へのお問い合わせ.....	7
<b>第 1 章：概要</b> .....	<b>9</b>
<b>第 2 章：トランザクション処理</b> .....	<b>11</b>
モバイルスキャナでの Warehouse Mobility の使用.....	11
ストックポイントにおける在庫調整.....	22
品目の棚卸.....	23
コンテナの再配置.....	27
品目の再配置.....	28
ストックポイントの在庫減少.....	31
ストックポイントの在庫増加.....	32
ストックポイントの在庫の表示.....	34
在庫状況の表示.....	34
検査品目の承認と不合格.....	35
品目の格納.....	37
ASN 品目の入庫.....	39
RMA なしの顧客返品入庫.....	42
品目の入庫.....	44
品目の委託倉庫への入庫.....	46
出庫オーダー明細の発行とピックリストの確認.....	48
カンバンの作成.....	48
カンバンの取消.....	49
カンバン品目の納入.....	50
カンバン補充の要求.....	50
カンバンのリセット.....	51
カンバンの復元.....	51
カンバン状況の表示.....	52
コンテナの構造の作成.....	53
新規コンテナの扱い単位の作成.....	53
コンテナを空にする.....	55
品目のコンテナへの入庫.....	55
コンテナ構造からのコンテナの削除.....	56
コンテナから品目を削除.....	56
コンテナ詳細の表示.....	58
クロスドッキング品目.....	58

計画外資材出庫.....	59
コンポーネント品目の終了品目へのリンク.....	61
完了作業の報告.....	61
完了生産の報告.....	63
生産からの品目の返品.....	65
チームの加入.....	66
チームの脱退.....	67
従業員の状況のリセット.....	67
シフトの開始.....	67
シフトの停止.....	68
チームを表示.....	68
ラベルの印刷.....	68
梱包のロード.....	69
梱包の荷降.....	70
オーダー別品目の梱包.....	71
事前定義構造を使用しないオーダー別品目の梱包.....	71
事前定義構造を使用した出荷別品目の梱包.....	73
出荷別品目の梱包.....	75
事前定義構造を使用した出荷別品目の梱包.....	75
梱包済品目を使用した出荷別品目の梱包.....	77
事前定義構造を使用しない出荷別品目の梱包.....	77
品目の再梱包.....	79
梱包の封印.....	80
梱包の開梱.....	81
梱包の表示.....	82
出荷の管理.....	83
品目のピック.....	84
オーダー別品目のピック.....	84
任務別品目のピック.....	86
実行別品目のピック.....	88
ピックリストを使用しないオーダーに対する品目のピック.....	91
ステージングからの品目の返品.....	93
ラベルの印刷.....	94
基本ラベルの印刷.....	95
扱い単位、カンバン、複数シリアル番号品目、複数ロット番号品目のラベルの印刷.....	95
ラベルの再印刷.....	96
ジョブの開始.....	96
単一のジョブの開始.....	97
間接ジョブをワークセットに追加.....	98
オーダーまたはプロジェクトのジョブをワークセットに追加.....	99
ワークセットの開始.....	100

ジョブを停止.....	100
単一のジョブの停止.....	100
ワークセットの停止.....	101
経過時間の報告.....	102



# Warehouse Mobility について

Infor Warehouse Mobility は包括的で信頼性の高いデータコレクションシステムで、工程と ERP システムの間をリアルタイムで情報をストリーミングして、作業を簡素化します。Infor Warehouse Mobility では、ERP システムで全ての折衝に対応します。ユーザはトランザクションを選択して、モバイル無線周波数 (RF) スキャナでバーコードされたデータをスキャンします。Infor Warehouse Mobility はデータを初期化し、ERP システムに転送します。ERP からのフィードバックは、受信したそのままユーザに表示されます。

11 ページの「モバイルスキャナでの Warehouse Mobility の使用」を参照してください。

## Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するご質問は、Infor Xtreme サポートポータル (<http://www.infor.com/inforxtreme>) をご利用ください。

製品リリース後にドキュメントを更新した場合は、Infor Xtreme に新しいバージョンを掲載します。この Web サイトでドキュメントの改訂を定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントについてのご意見は、[documentation@infor.com](mailto:documentation@infor.com) にお寄せください。



このモジュールには、Warehouse Mobility 用 Infor Factory Track LN の各機能とトランザクションおよびフォームの使い方について説明したトピックが含まれています。



この章では、Factory Track LN の Warehouse Mobility に関連するトランザクション処理について説明します。

## モバイルスキャナでの Warehouse Mobility の使用

モバイルスキャナ デバイスの Infor Warehouse Mobilityを使用して、在庫、生産、労務コレクション、ピック、格納、受入、および出荷トランザクションを実行できます。モバイルスキャナ デバイスの Time Track 出退勤トランザクションを実行するには、Time Track モジュールを実装する必要があります。Time Trackを使用した出退勤、チームトランザクションの実行については、「モバイルスキャナでの Time Track の使用」を参照してください。Time Track が実装された場合、Warehouse Mobility トランザクションは Time Track トランザクションに置換され、以下が使用できなくなります。

- 経過時間
- ジョブ予約
- チームの管理
- 従業員のリセット
- シフトの開始/中止

Web ベース メニューを使用して、Warehouse Mobility トランザクションへアクセスできます。

「Warehouse Mobility トランザクションへのアクセス」を参照してください。

次のモバイルスキャナ トランザクションはWarehouse Mobilityを使用しながら利用できます:

- 13 ページの引当発行
- 13 ページの承認
- 13 ページの完成時
- 13 ページのASN 入庫
- 13 ページの扱い単位のクローズ
- 14 ページの委託入庫
- 14 ページの扱い単位の作成
- 14 ページのクロスドッキング
- 14 ページの顧客返品

- 14 ページの循環棚卸
- 14 ページのデバイス割当
- 15 ページの経過時間
- 15 ページのグローバル移動
- 15 ページの扱い単位照会
- 15 ページの在庫調整
- 15 ページの在庫転送
- 15 ページの在庫償却
- 15 ページの在庫増加
- 16 ページの品目照会
- 16 ページのジョブ予約
- 16 ページのカンバン取消
- 16 ページのカンバン作成
- 16 ページのカンバン納入
- 17 ページのカンバン要求
- 16 ページのカンバン復元
- 17 ページのカンバンリセット
- 17 ページのカンバン状況
- 17 ページの扱い単位のリンク
- 17 ページのロード中
- 17 ページの保管場所照会
- 17 ページのチームの管理
- 18 ページのオーダー別梱包
- 18 ページの出荷別梱包
- 18 ページの梱包照会
- 18 ページの実棚卸
- 19 ページのピック
- 19 ページの格納
- 19 ページの受入
- 受入ラベルの印刷
- 19 ページの出庫発行
- 20 ページの再梱包
- 20 ページの作業報告
- 20 ページの生産報告
- 20 ページの従業員のリセット
- 20 ページの発送確定から返送
- 20 ページの資材返品
- 21 ページの封印
- 21 ページの出荷用扱い単位

- 21 ページの扱い単位の分割
- 21 ページのシフトの開始/中止
- 21 ページの扱い単位のリンク解除
- 21 ページの未計画資材出庫

## 引当発行

引当発行トランザクションを使用して、ピックリストに関連するオーダ品目をピックします。このトランザクションで、どの保管場所の品目がピックされる必要があるか判断することができます。品目のピック時に在庫引当が自動的に生成、発行されるように、トランザクションを設定できます。

91 ページの「ピックリストを使用しないオーダに対する品目のピック」を参照してください。

## 承認

検査した品目を承認、拒否、破棄するには承認トランザクションを使用します。

在庫管理処理を効率化するために、このトランザクション内から在庫の格納を行うこともできます。さらに、品目がオーダで即時に必要とされるときは、このトランザクション内からクロスドッキングが実行できます。承認された品目に対しては格納またはクロスドックのみ可能です。

35 ページの「検査品目の承認と不合格」を参照してください。

## 完成時

構築済トランザクションを使用して終了品目にシリアル管理またはロット管理のコンポーネント品目をリンクします。これらの品目をリンクするとシリアルまたはロット番号での生産オーダ上の品目を構築するために使用されるコンポーネントの追跡が楽になります。各終了品目のシリアル番号を、終了品目構築するために使用される特定のコンポーネントのシリアルまたはロット番号にリンクすることができます。

61 ページの「コンポーネント品目の終了品目へのリンク」を参照してください。

## ASN入庫

ASN入庫トランザクションを使用して、事前出荷明細送付を使用する品目を入庫します (ASN)。ID フィールドで、ASN番号、梱包一覧番号、または梱包伝票番号をスキャンして、受け入れます。受入上のすべての品目を受け入れるか、個別明細でを選択し受け入れるかを選択することができます。

在庫管理処理を効率化するために、即時格納在庫を選択でき、これは特定の明細を受け入れている場合にのみ利用できます。

39 ページの「ASN 品目の入庫」を参照してください。

## 扱い単位のクローズ

コンテナから全ての品目を削除した場合、扱い単位のクローズを使用して、コンテナに割り当てられた処理ユニットを閉じるまたは削除する必要があります。コンテナを保管する場合は、再度使用ができるように扱い単位を削除せずに閉じることで今後の扱い単位を再使用することができます。

55 ページの「コンテナを空にする」を参照してください。

### 委託入庫

委託入庫トランザクションを使用して、購買オーダーの一部ではない品目を委託倉庫で受け入れます。

46 ページの「品目の委託倉庫への入庫」を参照してください。

### 扱い単位の作成

新規コンテナに箱などの在庫を置く場合、コンテナの内容および保管場所を追跡するために、扱い単位の作成トランザクションを使用して、扱い単位の作成を作成することができます。

53 ページの「新規コンテナの扱い単位の作成」を参照してください。

### クロスドッキング

さらに、新たな受入品目がオーダーで即時に必要とされる場合は、このクロスドックトランザクションを使用して時間の節約のために通常の格納や検品プロセスを迂回し、ステージングエリアに直接送ることができます。

適切なパラメタを選択すると、受入、承認、生産報告、格納のトランザクションの処理時に品目のクロスドッキングが実行できます。スタンドアロントランザクションではクロスドッキングを実行できません。

クロスドッキングでは直接資材供給(DMS) 要求が優先されます。このトランザクションを他の出庫オーダーへ品目をクロスドッキングするために使用する前に、DMSクロスドッキング要求を満たす必要があります。

58 ページの「クロスドッキング品目」を参照してください。

### 顧客返品

顧客返品トランザクションを使用して、RMA なしで顧客が返品した品目を入庫します。

42 ページの「RMA なしの顧客返品入庫」を参照してください。

### 循環棚卸

循環棚卸トランザクションを使用して、指定品目の在庫の数量を検証します。ERP LNで循環棚卸シートを生成した後、倉庫オーダー番号を指定することでスキナのカウンタ一覧を確認できます。ストックポイントの品目の数量を検証し、このトランザクション内の物理的な数をERP LNIに記録することができます。

正しい品目およびストックポイントが棚卸済であることを確実にするには、トランザクションパラメタを使用して、ユーザに品目番号、保管場所、およびロット番号をスキャンしなければならないようにします。スキャン済の値および選択済の棚卸品目間の不一致があれば、エラーメッセージが表示されます。

23 ページの「品目の棚卸」を参照してください。

### デバイス割当

デバイス割当トランザクションを使用したデバイスの出庫と返却

「デバイスの出庫と返却」を参照してください。

## 経過時間

経過時間トランザクションを使用して、作業と数量をジョブに対して報告します。このトランザクションは従業員またはチームとして使用できます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

102 ページの「経過時間の報告」を参照してください。

## グローバル移動

グローバル移動トランザクションを使用して、倉庫内のすべての資材の内容をひとつの保管場所から他へ移動します。例えば、保管場所が湿気などの環境災害によって破損または影響を受けた場合、全ての在庫をそこから移動する必要があるとします。利用可能かつ引当済の品目はこのトランザクションを使用すると再配置されます。保管場所管理倉庫に対してのみ、このトランザクションを使用できます。ひとつの倉庫から他へ再配置する場合、在庫転送トランザクションを使用して各ストックポイントを個別に移動しなくてはなりません。

28 ページの「品目の再配置」を参照してください。

## 扱い単位照会

HU照会トランザクションを使用して、コンテナに関する情報を表示します。

58 ページの「コンテナ詳細の表示」を参照してください。

## 在庫調整

在庫調整トランザクションを使用して、ストックポイントの在庫数量の調整を行います。

22 ページの「ストックポイントにおける在庫調整」を参照してください。

## 在庫転送

在庫移動トランザクションを使用して、倉庫内または倉庫間で未引当品目をひとつの保管場所から他へ移動します。このトランザクションは、未計画の品目転送にのみ使用します。個別のピック処理と入庫処理が必要となる計画転送では、ピックと入庫のトランザクションを使用してください。

ピックリストで 84 ページの「品目をピック」および 44 ページの「品目受入」を参照してください。

パラ在庫品目ではなく、コンテナ内の品目移動、またはコンテナからの品目移動を行うときは、扱い単位を指定する必要があります。27 ページの「コンテナの再配置」を参照してください。

28 ページの「品目の再配置」を参照してください。

## 在庫償却

在庫償却トランザクションを使用して、ストックポイントの品目数量を減少することができます。

31 ページの「ストックポイントの在庫減少」を参照してください。

## 在庫増加

在庫増加トランザクションを使用して、ストックポイントの品目数量を増加することができます。

32 ページの「ストックポイントの在庫増加」を参照してください。

### 品目照会

品目照会トランザクションを使用して、指定品目の手持ち、引当、およびフリー在庫を探します。必要に応じて、品目のシリアル番号、ロット番号、在庫日付、および扱い単位を確認することができます。品目照会トランザクションで、品目および倉庫入力に基づいて、フリー数量のある全ての保管場所のリストを表示します。

34 ページの「在庫状況の表示」を参照してください。

### ジョブ予約

ジョブ予約トランザクションを使用して、時間と完成済みの数量をジョブに対して報告します。個別のジョブを開始および停止できます、または、ワークセットが有効になっている従業員の場合、ワークセットを使用して複数のジョブを開始および停止できます。このトランザクションは従業員またはチームとして使用できます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

96 ページの「ジョブの開始」および 100 ページの「ジョブの停止」を参照してください。

### カンバン取消

カンバン取消トランザクションを使用して、カンバンを使用から削除します。あとでカンバンが再度必要になったら、カンバン復元トランザクションを使用できます。

49 ページの「カンバンの取消」を参照してください。

### カンバン作成

カンバン作成トランザクションで、カンバンを作成します。このトランザクショントランザクションを使用して作成するカンバンは、ERP LN で構成された既存のカンバンループ をもとにしています。

48 ページの「カンバンの作成」を参照してください。

### カンバン納入

カンバン要求トランザクションを使用して、カンバン要求を満たすために在庫された品目をカンバン保管場所に納入します。

50 ページの「カンバン品目の納入」をご参照ください。

### カンバン復元

カンバン復元トランザクションを使用して、以前に取消されたカンバンが使用できるようにします。

51 ページの「カンバン復元」を参照してください。

## カンバン要求

カンバン要求トランザクションを使用して、消耗したカンバンの補充を要求します。要求に対し作成されたオーダタイプはカンバンによって定義されたカンバンループによって測定されています。

50 ページの「カンバン補充の要求」を参照してください。

## カンバンリセット

カンバンリセットトランザクションを使用して、カンバンの状況を [在庫あり] にリセットします。

51 ページの「カンバンのリセット」を参照してください。

## カンバン状況

カンバン状況トランザクションを使用して、カンバンの状況を表示します。

52 ページの「カンバン状況の表示」を参照してください。

## 扱い単位のリンク

コンテナをコンテナのグループに追加すると、扱い単位のリンクトランザクションを使用して、コンテナの扱い単位をグループの扱い単位にリンクすることが必要です。例えば、ボックスをパレットに追加すると、ボックスの扱い単位をパレットの扱い単位にリンクすることが必要です。

53 ページの「コンテナをグループへ追加」を参照してください。

## ロード中

ロードトランザクションを使用して梱包を積荷します。出荷に関連付けられている封印済梱包のみをロードできます。

69 ページの「梱包のロード」を参照してください。

## 保管場所照会

保管場所照会トランザクションを使用して、保管場所の在庫数を表示します。手持ち、引当、およびフリー数量に加えて、必要に応じて、品目のシリアル番号、ロット番号、在庫日付、および扱い単位を確認することができます。

34 ページの「ストックポイントの在庫の表示」を参照してください。

## チームの管理

チームの管理トランザクションを使用してあるチームからメンバーを追加および削除し、現在チームに割り当てられている従業員を確認することができます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

66 ページの「チームの加入」、67 ページの「チームの脱退」、および 68 ページの「チームを表示」を参照してください。

### オーダー別梱包

出庫発行またはピッキング確認前に、オーダー別梱包トランザクションを使用して、オーダーに対して品目の梱包を行います。このトランザクションを使用して品目を梱包する方法は 2 つあります：

- 事前梱包品目の使用:  
オーダーラインの品目が、出荷要件を満たすコンテナ構造で既に梱包されている場合に、この梱包方法を使用します。コンテナ構造が正しいことを確認できます。あるいはコンテナ構造に問題がある場合は、構造を分解して手動で再構築することもできます。
- 事前定義構造を使用しない品目の梱包  
オーダーラインの品目が特定のコンテナ構造に一致する必要がない場合に、この梱包方法を使用します。状況に応じたコンテナ構造を任意に作成することができます。

オーダーに対して複数の梱包方法の使用が必要な場合もあります。

71 ページの「オーダー別品目の梱包」を参照してください。

### 出荷別梱包

出荷別梱包トランザクションを使用して、出荷に対して品目の梱包を行います。このトランザクションを使用して品目を梱包する方法は 3 つあります：

- 事前梱包品目の使用:  
出荷ラインの品目が、出荷要件を満たすコンテナ構造で既に梱包されている場合に、この梱包方法を使用します。コンテナ構造が正しいことを確認できます。あるいはコンテナ構造に問題がある場合は、構造を分解して手動で再構築することもできます。
- 事前定義構造を使用した品目の梱包  
出荷ラインの品目が、ピックされた品目の現在の構造に一致しない事前指定のコンテナ構造で梱包される必要がある場合に、この梱包方法を使用します。出荷要件を満たす品目に対するコンテナ構造を作成することができます。
- 事前定義構造を使用しない品目の梱包  
出荷ラインの品目が特定のコンテナ構造に一致する必要がない場合に、この梱包方法を使用します。状況に応じたコンテナ構造を任意に作成することができます。

出荷に対して複数の梱包方法の使用が必要な場合もあります。

75 ページの「出荷別品目の梱包」を参照してください。

### 梱包照会

梱包照会トランザクションを使用して、出荷またはオーダーの梱包階層を表示します。

82 ページの「梱包の表示」を参照してください。

### 実棚卸

実棚卸トランザクションを使用して、倉庫の指定の保管場所で在庫を検証します。正確な実棚卸を作成するため、倉庫の保管場所で品目の数量をスキャンします。これらの棚卸とERP LN記録間の差異は調査の対象となります。ERP LN内の保管場所の在庫記録は自動的に実棚卸に一致するよう調整されます。

23 ページの「品目の棚卸」を参照してください。

## ピック

ピクトランザクションを使用して、使用に割り当てた品目をピックします。ERP LNの出庫アドバイス論理を使用して、スキャナがどの品目数量をそのストックポイントからピックするか導きます。これらの保管場所のストックポイントはピック効率の向上のためにソートすることができます。

トランザクション パラメタを使用すると、検証のためにスキャンする品目番号、ロット番号、在庫日付、保管場所、および扱い単位を要求し、作業規律を改善できます。

84 ページの「品目のピック」を参照してください。

## 格納

受入のように、他のトランザクションと格納を結合する選択をしない場合は、品目を格納するために、スタンドアロン格納トランザクションを使用します。受入番号、オーダー番号、格納一覧を使用して品目を格納します。

格納トランザクションにはビルトイン連結論理があります。品目をランダムまたは空の保管場所に格納する代わりに、品目がすでに利用可能な保管場所のリストから選択できるので、品目は小さめのプールの保管場所に連結します。

37 ページの「品目の格納」を参照してください。

## 受入ラベルの印刷

このトランザクションフォームを使用して、倉庫受入ラベルを出力できます。ラベルにはスキャナで入力したインバウンドデータが含まれます。

「倉庫受入ラベルの印刷」を参照してください。

## 受入

受入トランザクションを使用して、倉庫に品目を受け入れます。品目にロット番号、在庫日付、シリアル番号、証明番号、および扱い単位を割当することができます。品目が受入られたら、すぐにバーコードラベルを印刷することもできます。

注: 品目が在庫内シリアルの場合、各シリアル番号はERP LNの個別の明細で受入られます。

在庫管理処理を効率化するために、このトランザクション内から在庫の格納を行うこともできます。さらに、品目がオーダーで即時に必要とされるときは、このトランザクション内からクロスドッキングが実行できます。

44 ページの「品目の入庫」を参照してください。

## 出庫発行

出庫発行トランザクションを使用して、出荷のオーダー明細を発行またはピックリストを確認します。

48 ページの「出庫オーダー明細の発行とピックリストの確認」を参照してください。

### 再梱包

再梱包トランザクションを使用して、梱包のコンテナ構造を修正します。これらのアクションを実行することで、このトランザクションを使用できます：

- 梱包を他の梱包に追加
- 梱包を他の梱包から削除
- 梱包解除

79 ページの「品目の再梱包」を参照してください。

### 作業報告

作業報告トランザクションを使用して、作業品目の完了を報告することにより生産の進行状況を追跡します。

61 ページの「完了作業の報告」を参照してください。

### 生産報告

作業報告トランザクションを使用して、生産品目の完了を報告することにより生産の進行状況を追跡します。

在庫管理処理を効率化するために、このトランザクション内から在庫の格納を行うこともできます。さらに、品目がオーダで即時に必要とされるときは、このトランザクション内からクロスドッキングが実行できます。

63 ページの「完了生産の報告」を参照してください。

### 従業員のリセット

従業員のリセットトランザクションを使用して、従業員の状態をアイドルに戻します。従業員のシフトが終了すると、従業員はチームから削除され、どの活動への割り当ても解除されます。従業員情報がERP LN を使用して入力したものである場合、このトランザクションを使用してFactory Track内の従業員の情報をリセットしERP LN内の新規の情報に一致させることができます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

67 ページの「従業員の状況のリセット」を参照してください。

### 発送確定から返送

ステージングからの返品トランザクションを使用して、出荷が取消または修正されたときにステージングエリアから在庫品目を返品します。品目返品は、ピックか出庫発行トランザクションによって既に発行されたステージングからのみ実行できます。

93 ページの「発送確定からの品目の返品」を参照してください。

### 資材返品

資材返品トランザクションを使用して、過去に生産オーダに出庫された品目を在庫に返品します。

65 ページの「生産からの品目の返品」を参照してください。

## 封印

封印トランザクションを使用して、梱包を封印します。封印後、その梱包に関連する出荷明細の凍結を選択することもできます。

80 ページの「梱包の封印」を参照してください。

## 出荷用扱い単位

出荷用扱い単位トランザクションを使用して出荷を管理します。このトランザクションは以下に対し使用できます：

- 出荷確認
- 出荷の凍結
- 出荷の凍結解除
- 梱包伝票の印刷
- 積荷表の印刷

83 ページの「出荷の管理」を参照してください。

## 扱い単位の分割

品目をコンテナから取り出す際に、扱い単位の分割トランザクションを使用して、また別のコンテナに追加するか、バラの在庫として指定することができます。

56 ページの「コンテナから品目を削除」を参照してください。

## シフトの開始/中止

シフトの開始/中止トランザクションを使用してシフトを開始または中止します。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

67 ページの「シフトの開始」および 68 ページの「シフトの中止」を参照してください。

## 扱い単位のリンク解除

扱い単位のリンク解除トランザクションを使用して、コンテナをコンテナ構造から削除します。例えば、箱をパレットから削除すると、箱の扱い単位のパレットの扱い単位へのリンクを解除する必要があります。

56 ページの「コンテナ構造からのコンテナの削除」を参照してください。

## 未計画資材出庫

未計画資材出庫トランザクションを使用して、ピックリストに記載されているものに加えて、生産オーダーに対し品目をピックします。これらの追加品目は新規明細のオーダーに追加されます。このトランザクションは、ピックの必要がある品目の保管場所の決定に関して柔軟性があります。品目のピック時に在庫引当が自動的に生成、発行されるように、トランザクションを設定できます。

59 ページの「未計画資材の出庫」を参照してください。

## ストックポイントにおける在庫調整

在庫調整トランザクションを使用して、ストックポイントの在庫数量の調整を行います。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。在庫調整は在庫トランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [在庫調整] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

[従業員]

従業員バッジ番号を指定します。

[倉庫]

品目の倉庫保管場所を指定します。

[理由コード]

償却の理由コードを指定します。

[品目]

品目番号をスキャンします。

[シリアル]

シリアル番号付在庫品目を使用してこのトランザクションを実行している場合は、シリアル番号をスキャンします。それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

[保管場所]

品目数量を減少させる保管場所をスキャンします。

[ロット]

該当する場合、ロット番号をスキャンします。

[棚卸日]

該当する場合、品目棚卸日をスキャンします。

[手持在庫]

記録された手持在庫数量が表示されます。

[数量]

ストックポイントの品目の新規数量を指定します。

- 3 [処理] を選択します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がない場合は、品目数量がERP LNで調整されます。品目がシリアル管理の場合やロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。
- 4 シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

**[シリアル生成?]**

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

**[全シリアル?]**

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで[はい]を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット番号]**

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

**[シリアル番号]**

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで[はい]を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[数量]**

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 5 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアル番号およびロット番号が全てスキャンされると、品目数量が ERP LN で調整されます。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## 品目の棚卸

棚卸は品目別または場所別に行うことができます。品目の数量と場所を確認するには、品目別の棚卸を行います。品目別の棚卸では、明細にある品目の情報の検証を行います。倉庫の内容を確認するには、場所別の棚卸を行います。場所別の棚卸では、必要に応じて数量に在庫ポイントを追加できます。

23 ページの「品目別棚卸」を参照してください。

25 ページの「場所別棚卸」を参照してください。

処理単位に割当済コンテナ内の品目を棚卸する場合、棚卸時に処理単位を指定します。これにより、新規の棚卸明細が作成され、棚卸された品目が追加のバラの在庫として扱われるのを防ぎます。

## 品目別品目棚卸

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。循環棚卸は在庫トランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [循環棚卸] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します：

[棚卸]

品目の再棚卸を行うには、新しい棚卸番号を指定します。新しい棚卸番号を指定すると、棚卸リストが更新されます。最初の棚卸にデフォルト値 [1] を使用します。

[扱い単位]

品目の扱い単位を指定します。

[倉庫]

倉庫を指定します。

[元保管場所および先保管場所]

任意で、元および先の保管場所(のみ、またはこれを含む)棚卸リストに含まれる保管場所を指定します。

[循環棚卸オーダ]

場合によって、循環棚卸オーダを指定します。扱い単位を使用しているときは、循環棚卸オーダ番号が表示されます。この番号は変更できません。

- 3 [次へ] を選択します。棚卸リストが表示されます。
- 4 棚卸する品目を選択します。
- 5 以下の情報を指定または確認します：

[循環棚卸オーダ]

棚卸を行う循環棚卸オーダが表示されます。

[保管場所]

品目の保管場所が表示されます。ストックポイントが保管場所管理でない場合、このフィールドは画面に表示されません。このフィールドは、[保管場所の表示] パラメータが選択されている場合にのみ表示されます。

[スキャン保管場所]

該当する場合、品目の保管場所をスキャンします。このフィールドはストックポイントが保管場所管理であり、かつ [保管場所の入力] パラメータがこのトランザクションで選択されている場合にのみ表示されます。

[品目]

品目番号が表示されます。このフィールドは、[表示品目] パラメータがこのトランザクションで選択されている場合にのみ表示されます。

[品目のスキャン]

品目番号をスキャンします。このフィールドは、このトランザクションに対して [品目入力] パラメータが選択されている場合にのみ表示されます。

[棚卸日]

棚卸日が表示されます。品目が日付管理でない場合、このフィールドは空白です。このフィールドは、[日付表示] パラメータがこのトランザクションで選択されている場合にのみ表示されます。

[日付のスキャン]

該当する場合は、棚卸日を指定します。品目が日付管理であり、トランザクションに対して [日付入力] パラメータを選択している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット]**

ロット番号が表示されます。品目がロット管理でない場合、このフィールドは空白です。このフィールドは、[ロット表示] パラメータがこのトランザクションで選択されている場合にのみ表示されます。

**[ロットのスキャン]**

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。品目がロット管理であり、トランザクションに対して[ロット入力] パラメータを選択している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[数量]**

棚卸数量を指定します。

- 6 [処理] を選択します。シリアル管理でない場合の品目は棚卸リストから削除され、棚卸数量がERP LN で記録されます。品目がシリアル管理であると、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

**[品目番号]**

品目番号と説明が表示されます。

**[残数量]**

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

**[全シリアル?]**

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[シリアル番号]**

シリアル番号をスキャンします。[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

- b [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号が処理されます。スキャンするシリアル番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアル番号が全てスキャンされると、品目が棚卸リストから削除されて、棚卸数量がERP LN に記録されます。オプションで [X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで [Y] を押してスキャンしたシリアル番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## 品目の場所別棚卸

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。実棚卸は在庫トランザクションでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [実棚卸] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

**[累計]**

カウントしている品目およびストックポイントの組合せがこのオーダーで既にカウント済の場合、[はい] を指定して、前にカウント済の数量にカウント済の数量を追加します。オーダー内で品目およびストック

ポイントの組合せを複数回間違えてカウントした場合、[いいえ] を選択してエラーメッセージを受入まず。

[棚卸]

品目の再棚卸を行うには、新しい棚卸番号を指定します。新しい棚卸番号を指定すると、棚卸リストが更新されます。最初の棚卸にデフォルト値 [1] を使用します。

[倉庫]

倉庫を指定します。

[循環棚卸オーダ]

場合によって、循環棚卸オーダを指定します。扱い単位を使用しているときは、循環棚卸オーダ番号が表示されます。この番号は変更できません。

[品目]

品目番号をスキャンします。品目説明および測定単位が表示されます。

[保管場所]

該当する場合、品目の保管場所をスキャンします。このフィールドはストックポイントが保管場所管理である場合にのみ表示されます。

[ロット]

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。品目がロット管理であり、トランザクションに対して[ロット入力] パラメータを選択している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

棚卸数量を指定します。

- 3 [処理] を選択します。シリアル管理でない場合の品目は棚卸リストから削除され、棚卸数量がERP LN で記録されます。品目がシリアル管理であると、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

- 4 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号が処理されます。スキャンするシリアル番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアル番号が全てスキャンされると、品目が棚卸リストから削除されて、棚卸数量が ERP LN に記録されます。オプションで [X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで [Y] を押してスキャンしたシリアル番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## コンテナの再配置

在庫転送トランザクションを使用して、倉庫内もしくは倉庫間において、コンテナをひとつの保管場所から他の場所へ移動します。このトランザクションは、未計画の品目転送にのみ使用します。個別のピック処理と入庫処理が必要となる計画転送では、ピックと入庫のトランザクションを使用してください。このトランザクションの使用指示については、84 ページの「品目のピック」および 44 ページの「品目の入庫」を参照してください。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。在庫転送は [在庫トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [在庫転送] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

[転送元倉庫]

コンテナが位置する倉庫を指定します。

[扱い単位]

扱い単位をスキャンします。品目番号、ストックポイントの特徴、手持ち数量、フリー数量、およびデフォルトの測定単位が表示されます。

[転送対象数量]

移動している品目の数量が表示されます。

[先倉庫]

品目の転送先となる倉庫を選択します。

[保管先]

品目の転送先となる保管場所をスキャンします。このフィールドは品目が保管場所管理の倉庫に転送される場合のみ表示されます。

- 3 [処理] を選択します。コンテナの一部を移動している場合、および品目がシリアル管理またはロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。
- 4 [シリアル/ロット入力] 画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 5 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。
- 6 コンテナの一部を移動している場合、扱い単位の分割画面が表示されます。コンテナの内容を分割する方法を指定するには:
  - a [他の扱い単位に追加?] フィールドで、削除済の品目を他の扱い単位に追加するか指定します。
  - b [はい] を選択した場合は、[扱い単位に追加] フィールドで扱い単位を指定します。任意で、未入力のままにすると、新しい扱い単位が生成されます。
  - c [いいえ] を選択した場合は、品目はバラの在庫になります。
- 7 [処理] を選択します。品目は新たな扱い単位に割り当てられるか、ERP LNでバラの在庫になります。

## 品目の再配置

在庫転送トランザクションを使用して、倉庫内もしくは倉庫間において、在庫をひとつの保管場所から他の場所へ移動します。このトランザクションは、未計画の品目転送にのみ使用します。個別のピック処理と入庫処理が必要となる計画転送では、ピックと入庫のトランザクションを使用してください。これらのトランザクションを使用するには、84 ページの「品目のピック」および 44 ページの「品目の入庫」を参照してください。

バラ在庫品目ではなく、コンテナ内の品目移動、またはコンテナからの品目移動を行うときは、扱い単位を指定する必要があります。詳細については 27 ページの「品目の再配置」を参照してください。

在庫転送トランザクションを使用して各ストックポイントごとの品目、または一度にすべてのストックポイントの品目を、一度のトランザクションである保管場所から他へ移動することができます。例えば、保管場所が湿気などの環境災害によって破損または影響を受けた場合、全ての在庫をそこから移動する必要があります。このように、ひとつのストックポイントから品目を移動する場合、在庫転送トランザクションを使用します。保管場所における全ストックポイントの品目の再配置には、グローバル転送トランザクションを使用します。保管場所管理倉庫に対してのみ、グローバル転送トランザクションを使用できます。

29 ページの「品目の保管場所の再配置」を参照してください。

30 ページの「保管場所における全ストックポイントの再配置」を参照してください。

## 品目の保管場所の再配置

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。在庫転送は [在庫トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [在庫転送] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:

### [転送元倉庫]

品目が存在する倉庫を指定します。

### [品目]

品目番号をスキャンします。品目説明およびデフォルトの測定単位が表示されます。

### [シリアル番号]

シリアル番号付在庫品目を使用してこのトランザクションを実行している場合は、シリアル番号をスキャンします。それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

### [保管元]

必要に応じて、品目番号をスキャンします。このフィールドは品目が保管場所管理の倉庫にある場合のみ表示されます。

### [ロット番号]

品目がロット管理の場合、このフィールドが表示されます。ロット番号をスキャンします。

### [棚卸日]

品目が日付管理の場合、このフィールドが表示されます。品目棚卸日をスキャンします。

### [手持在庫数量]

手持在庫の品目数量が表示されます。

### [フリー数量]

移動に有効な品目数量が表示されます。

### [転送対象数量]

移動する品目の数量を指定します。デフォルトの測定単位が表示されます。

### [先倉庫]

品目の転送先となる倉庫を選択します。

### [保管先]

品目の転送先となる保管場所をスキャンします。このフィールドは品目が保管場所管理の倉庫に転送される場合のみ表示されます。

- 3 [処理] を選択します。品目がシリアル管理でない場合は、指定数量が転送されます。品目がシリアル管理の場合やロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

### [品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

### [残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

### [シリアル生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

### [全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで[はい]を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

### [ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

### [シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで[はい]を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

### [数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 4 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアル番号およびロット番号が全てスキャンされると、指定数量が転送されます。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## 保管場所における全ストックポイントの再配置

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。グローバル移動は [在庫トランザクション] でトランザクションの1つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [グローバル移動] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:

### [転送元倉庫]

在庫の転送元の倉庫を指定します。

### [保管元]

移動される前の在庫がある保管場所をスキャンします。

### [先倉庫]

在庫の転送先となる倉庫を選択します。

### [保管先]

在庫の転送先となる保管場所をスキャンします。

注: グローバル移動は同一の倉庫内でのみ機能します。1つの倉庫から別の倉庫へのグローバル移動はありません。

- 3 [処理] を選択します。

## ストックポイントの在庫減少

在庫償却トランザクションを使用して、ストックポイントの品目数量を減少することができます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。在庫償却は [在庫トランザクション] でトランザクションの1つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [在庫償却] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

[従業員]

従業員バッジ番号を指定します。

[倉庫]

品目の倉庫保管場所を指定します。

[理由コード]

償却の理由コードを指定します。

[品目]

品目番号をスキャンします。

[シリアル]

シリアル番号付在庫それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

[保管場所]

品目数量を減少させる保管場所をスキャンします。

[ロット]

該当する場合、ロット番号をスキャンします。

[棚卸日]

該当する場合、品目棚卸日をスキャンします。

[手持在庫]

記録された手持在庫数量が表示されます。

[数量]

品目数量から差し引く数量を指定します。

- 3 [処理] を選択します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がない場合は、品目数量が ERP LN で減少します。品目がシリアル管理の場合やロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。
  - a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

**[品目番号]**

品目番号と説明が表示されます。

**[残数量]**

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

**[シリアルの生成?]**

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

**[全シリアル?]**

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット番号]**

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

**[シリアル番号]**

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[数量]**

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- b** [処理]を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアル番号およびロット番号がすべてスキャンされると、品目数量がERPLNで減少します。オプションで、[X]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## ストックポイントの在庫増加

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫トランザクションから構成されています。在庫増加は [在庫トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫トランザクションで:

- 1 [在庫増加] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

## [従業員]

従業員バッジ番号を指定します。

## [倉庫]

品目の倉庫保管場所を指定します。

## [理由コード]

償却の理由コードを指定します。

## [品目]

品目番号をスキャンします。

## [シリアル]

シリアル番号付在庫それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

## [保管場所]

品目数量を減少させる保管場所をスキャンします。

## [ロット]

該当する場合、ロット番号をスキャンします。

## [棚卸日]

該当する場合、品目棚卸日をスキャンします。

## [手持在庫]

記録された手持在庫数量が表示されます。

## [数量]

品目数量から差し引く数量を指定します。

- 3 [処理] を選択します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がない場合は、品目数量が ERP LN で増加します。品目がシリアル管理の場合やロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

## [品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

## [残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

## [シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

## [全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

### [ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

### [シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

### [数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- b [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアル番号およびロット番号がすべてスキャンされると、品目数量が ERPLN で増加します。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## ストックポイントの在庫の表示

保管場所照会を使用して、ストックポイントの全在庫数を一覧で表示します。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫から構成されています。保管場所照会は [在庫] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫での操作。

- 1 [保管場所照会] を選択します。
- 2 倉庫および保管場所を指定します。
- 3 [場所詳細] を選択します。説明、手持在庫、および予約数が表示されます。
- 4 ロットや日付ごとの数量などの詳細は、保管場所を選択し、[品目詳細] を参照してください。

## 在庫状況の表示

品目照会トランザクションを使用して、品目の在庫状況を表示します。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、在庫から構成されています。品目照会は [在庫トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

在庫で品目の状況を表示する方法。

- 1 [照会] を選択します。
- 2 [品目照会] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

**[品目]**

品目番号をスキャンします。

**[単位]**

測定単位が表示されます。

**[元倉庫]**

品目が存在する倉庫を指定します。任意では、空欄のままにすると全ての倉庫を表示します。

**[先倉庫]**

この値は [FW] フィールドの倉庫に一致します。オプションで、[TW] フィールドで異なる倉庫を指定して特定の元倉庫および先倉庫の結果と、またその間にあるすべての倉庫の結果の両方を英数字順に表示できます。例えば、[FW] フィールドの RAW AM、[TW] フィールドの RAW EM を指定すると、RAW AM、RAW CM、RAW EM の結果が一覧表示されます。

**[元保管場所]**

品目保管場所をスキャンします。任意で、検索条件フィールドを空欄のままにすると、全ての保管場所が表示されます。

**[先保管場所]**

この値は [元保管場所] フィールドの倉庫に一致します。オプションで、[先保管場所] フィールドの異なる倉庫を指定して、特定した倉庫の結果とその間のすべての倉庫の結果の両方を英数字順に表示できます。

- 4 [品目詳細] を選択します。品目保管場所、手持在庫、引当済数量、およびフリー数量が表示されます。
- 5 倉庫または品目保管場所を指定しなかった場合、[倉庫詳細] または [保管場所詳細] のどちらかを選んでロットや日付ごとに分けられた数量などの詳細を確認できます。

## 検査品目の承認と不合格

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。承認は入庫トランザクションでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [承認] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

**[オーダー区分]**

オーダー区分を指定します。

**[倉庫]**

品目を検査する倉庫を指定します。

**[オーダー番号]**

オーダー番号をスキャンします。

[品目番号]

任意で、特定の品目を含む行のみを表示するには、品目番号をスキャンします。フィールドを空欄にすると、検査待ちの全ての行が表示されます。

- 3 [Enter] キーを押します。検査待ちのリストが表示されます。
- 4 検査する品目をスキャンします。
- 5 親扱い単位を検査する場合、子を含む扱い単位全体を承認または拒否する必要があります。以下の情報を指定します：

[承認済数量]

承認する品目の数量を指定します。検査において不合格と判断されないかぎり、この数量には破損品目の数量も含まれます。

[不合格数量]

不合格品目の数量を指定します。

[理由コード]

品目を不合格とした場合、理由コードを指定します。

[破損数量]

破損品目の数量を指定します。破損品目は承認済の品目においてのみ発生するため、破損数量は承認済数量と同数またはそれ以下である必要があります。

[理由コード]

品目を破損させた場合、破損の理由コードを指定します。[破損数量] フィールドで 0 より多い数量が指定された場合にのみ表示されます。

[仕損数量]

スクラップする不合格品目があればその数量を入力します。スクラップされない不合格品目は隔離されます。このフィールドは品目を不合格と判断した上で、ERP LN でスクラップ、隔離、またはその両方に指定されている場合にのみ表示されます。

[理由コード]

スクラップ品目があれば、その理由コードを指定します。[スクラップ数量] フィールドで 0 より多い数量が指定された場合にのみ表示されます。

- 6 [処理] を選択します。品目がシリアル化されていれば、シリアル入力画面が表示されます。参照IDとしてシリアル番号をスキャン済み、または品目が扱い単位の一部である場合、シリアル番号をスキャンする必要はないため、シリアル入力画面も表示されません。
  - a シリアル入力画面が表示されたら、各シリアル番号をスキャンします。
  - b 以下の情報を指定または確認します：

[処理]

スキャン済シリアル番号が承認済 ([A])、不合格 ([R])、または破損 ([D]) のいずれであるかを指定します。

[残数量]

スキャン済のシリアル番号の数が表示されます。オプションで [X] を押してスキャン済シリアル番号を表示します。シリアル番号を間違えてスキャンした場合、[Y] を押してトランザクション内のスキャン済シリアル番号を全て削除できます。[残数量] フィールドがリセットされ、正しいシリアル番号を入力できます。

- 7 クロストッキングを行う確認が表示されたときに、クロストッキングを行うには、58 ページの「品目のクロストッキング」を参照してください。クロストッキングを行わない場合は、[いいえ] を指定します。
- 8 プロンプトが表示されたら、[実際の保管場所] フィールドで格納保管場所を指定します。
- 9 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベル出力画面を使用してラベルを出力する場合は、68 ページの「ラベルの出力」を参照してください。

## 品目の格納

受入番号、オーダ番号、格納一覧を使用して品目を格納します。このトランザクションで [受入番号別格納] または [格納一覧別格納] パラメータを選択した場合、以下の方法で品目を格納します。パラメータが空欄の場合、オーダ番号を使用して品目を格納します。

- 37 ページの「入庫番号を使用した品目の格納」を参照してください。
- 38 ページの「オーダ番号を使用して品目の格納」を参照してください。
- 39 ページの「保管リストを使用した品目の格納」を参照してください。

## 入庫番号を使用した品目の格納

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。格納は [インバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [格納] を選択します。
- 2 受入をスキャンします。
- 3 [処理] を選択します。
- 4 格納する明細を選択します。

注: 扱い単位にリンクされたコンテナを格納している場合は、格納するラインを選択するためのプロンプトは表示されません。

- 5 以下の情報を指定します:

[実際のロケーション]  
格納場所を指定します。

[数量]  
格納する数量を指定します。

注: 扱い単位を使用しているときは、[扱い単位の入力] フィールドで [はい] を指定して、入庫処理中の品目に扱い単位を指定します。バラの在庫品目の在庫では、[いいえ] を指定します。詳細は、55 ページの「受入品目への扱い単位の割り当て」を参照してください。

- 6 [処理] を選択します。

- 7 該当する場合、品目のクロスドッキングを行うかどうか確認されます。クロスドッキングを行うには、58ページの「品目のクロスドッキング」を参照してください。クロスドッキングを行わない場合は、[いいえ]を指定します。

## オーダー番号を使用して品目の格納

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。格納は [インバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [格納] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

[オーダー区分]  
オーダー区分を指定します。

[オーダー番号]  
オーダー番号をスキャンします。

[品目番号]  
ある品目を含む明細のみを任意で表示するには、品目番号をスキャンします。未入力のままにして格納待ちの明細をすべて表示します。

- 3 [処理] を選択します。
- 4 格納する明細を選択します。

注: 扱い単位にリンクされたコンテナを格納している場合は、格納するラインを選択するためのプロンプトは表示されません。

- 5 以下の情報を指定します:

[実際のロケーション]  
格納場所を指定します。

[数量]  
格納する数量を指定します。

注: 扱い単位を使用しているときは、[扱い単位の入力] フィールドで [はい] を指定して、入庫処理中の品目に扱い単位を指定します。バラの在庫品目の在庫では、[いいえ] を指定します。詳細は、55ページの「受入品目への扱い単位の割り当て」を参照してください。

- 6 [処理] を選択します。
- 7 該当する場合、品目のクロスドッキングを行うかどうか確認されます。クロスドッキングを行うには、58ページの「品目のクロスドッキング」を参照してください。クロスドッキングを行わない場合は、[いいえ]を指定します。

## 保管リストを使用した品目の格納

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。格納は [インバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

1 [格納] を選択します。

2 以下の情報を指定します:

[倉庫]

品目を受け入れる倉庫を指定します。

[実行番号]

入庫実行番号をスキャンします。

[[開始任務] と [終了任務]]

処理する任務番号の範囲を指定します。これらのフィールドで指定された任務番号、およびその間にある全ての任務番号が範囲に含まれます。

[品目番号]

品目番号をスキャンします。

3 [処理] を選択します。

4 格納する明細を選択します。

注: 扱い単位にリンクされたコンテナを格納している場合は、格納するラインを選択するためのプロンプトは表示されません。

5 以下の情報を指定します:

[実際のロケーション]

格納場所を指定します。

[数量]

格納する数量を指定します。

注: 扱い単位を使用しているときは、[扱い単位の入力] フィールドで [はい] を指定して、入庫処理中の品目に扱い単位を指定します。バラの在庫品目の入庫では、[いいえ] を指定します。詳細は、55 ページの「品目のコンテナへの入庫」を参照してください。

6 [処理] を選択します。

7 クロスドッキングを行う確認が表示されたときに、クロスドッキングを行うには、58 ページの「品目のクロスドッキング」を参照してください。クロスドッキングを行わない場合は、[いいえ] を指定します。

## ASN 品目の入庫

ASN入庫トランザクションを使用して、事前出荷明細送付を使用する品目を入庫します。入庫の実行には、事前出荷明細送付を [オープン] にしておく必要があります。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。ASN 入庫はインバウンドトランザクションでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [ASN 入庫] を選択します。
- 2 [ID] フィールドで、ASN 番号、梱包一覧番号、または梱包伝票番号をスキャンします。
- 3 以下の情報を指定または確認します:

[ID]

IDとしてスキャンした番号が表示されます。

[ASN]

出荷番号が表示されます。

[品目数]

入庫する明細数が表示されます。

[ロット数]

入庫するロット数が表示されます。

[処理]

梱包一覧にリストされた明細および数量をすべて入庫するには、[A] を指定して [Enter] キーを押します。この処理を実行する前に、入庫済の品目と数量が梱包一覧にリストされたものと合致しているかを確認します。

一度に 1 つの明細を入庫するには、[X] を押します。入庫する明細一覧が表示されます。

- 4 入庫する明細を選択します。
- 5 以下の情報を指定または確認します:

[検査?]

場合によって、入庫処理中の品目の検査を行うか指定します。トランザクションに対して [検査の入力許可] パラメータが選択されていない場合は、このフィールドは表示のみとなります。

[発注先ロット]

該当する場合、発注先ロット番号をスキャンします。

[証明番号]

任意では、ドキュメントをロット番号にリンク付けするには、証明番号を指定します。品目がロット管理であり、トランザクションに対して [ロット証明コードユーザ入力] パラメータが選択されている場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。

[梱包伝票数量]

梱包伝票に記載されている数量を指定します。

[受入済数量]

入庫する数量を指定します。

[棚卸日]

場合によって、棚卸日を指定します。

**[最終入庫?]**

場合によって、現在の出荷でこのオーダーラインに対して入庫する品目がまだあるかどうかを指定します。例えば、オープン数量が 100 であり、この出荷で 50 入り 1 箱を入庫し、将来の出荷で 50 入りの 1 箱を入庫する場合、[はい] を指定します。この出荷で 50 入り 2 箱とも入庫している場合は、最初の箱の入庫時に [いいえ] を指定してから、2 箱目の入庫時に [はい] を指定します。トランザクションに対して [最終入庫ユーザ入力] パラメータが選択されていない場合は、このフィールドは表示のみとなります。

**[シリアル/ロット入力?]**

入庫品目に対して新しいシリアル番号を生成するには、[いいえ] を選択します。既存のシリアル番号の手動スキャンを行うには、[はい] を選択します。

- 6 [処理] を選択します。シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

**[品目番号]**

品目番号と説明が表示されます。

**[残数量]**

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

**[シリアルの生成?]**

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

**[全シリアル?]**

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット番号]**

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

**[シリアル番号]**

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[数量]**

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- b [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

- 7 クロスドッキングを行う確認が表示されたときに、クロスドッキングを行うには、58 ページの「品目のクロスドッキング」を参照してください。クロスドッキングを行わない場合は、[いいえ] を指定します。
- 8 プロンプトが表示されたら、[実際の保管場所] フィールドで格納保管場所を指定します。
- 9 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベル出力画面を使用してラベルを出力する場合は、68 ページの「ラベルの出力」を参照してください。

## RMA なしの顧客返品入庫

顧客返品トランザクションを使用して、RMA なしで顧客が返品した品目を入庫します。RMA のある顧客返品品目を受け入れるには 44 ページの「品目の入庫」を参照してください。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。顧客返品インバウンドトランザクションでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [顧客返品] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:
  - [顧客]  
品目を返品する顧客番号を指定します。
  - [新規オーダー?]  
返品用に新規販売オーダーを作成するには、[はい] を指定します。既存のオーダーに返品を追加するには、[いいえ] を指定します。
  - [オーダー番号]  
返品を追加するオーダー番号を指定します。既存のオーダーに返品を追加する場合のみ、このフィールドが表示されます。
- 3 [次へ] を選択します。
- 4 以下の情報を指定または確認します:
  - [オーダー番号]  
既存のオーダーに返品を追加する場合、そのオーダー番号が表示されます。新規オーダーを作成している場合、このフィールドは空になります。
  - [品目番号]  
品目番号をスキャンします。
  - [ロット番号]  
該当する場合は、ロット番号をスキャンします。
  - [数量]  
返品する数量を指定します。
  - [倉庫]  
受入倉庫を指定します。

## [保管場所]

該当する場合、品目を入庫する保管場所を指定します。

## [扱い単位の生成]

該当する場合、返品品目の扱い単位を作成するかを指定します。扱い単位を使用しており、品目が扱い単位管理である会社組織であれば、このフィールドが使用できます。

## [扱い単位]

返品品目を受け入れる扱い単位を指定します。

- 5 [処理] を選択します。品目がシリアル管理の場合やロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

## [品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

## [倉庫]

倉庫が表示されます。

## [残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

## [シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

## [全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

## [ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

## [シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

## [数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 6 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。
- 7 プロンプトが表示されたら、[実際の保管場所] フィールドで格納保管場所を指定します。

- 8 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベル出力画面を使用してラベルを出力する場合は、68 ページの「ラベルの出力」を参照してください。

## 品目の入庫

受入トランザクションを使用して、品目を受け入れます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。受入は [インバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [受入] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:

[オーダ区分]

受け入れるオーダのタイプを選択します。

[受入日]

品目の受け入れがある日付を指定します。トランザクションに対して [受入日の入力を認める] パラメータが選択されている場合にのみこのフィールドが表示されます。

[倉庫]

受入倉庫を指定します。

[梱包伝票]

梱包伝票をスキャンします。

[カンバンID]

該当する場合、カンバン番号をスキャンします。トランザクションに対して [カンバン ID の入力を認める] パラメータが選択されている場合にのみこのフィールドが表示されます。

[オーダ番号]

任意で、オーダ番号をスキャンします。

[品目]

任意で、受け入れる品目を含む明細のみの品目番号をスキャンします。

[位置]

任意で、受け入れる位置のみの位置番号をスキャンします。オーダ番号をスキャンし、カンバンIDをスキャンしない場合のみ、このフィールドが利用可能になります。

- 3 [次へ] を選択します。受け入れる品目が表示されます。
- 4 受入品目を選択します。受け入れる品目のオーダ番号、位置、倉庫、品目番号、品目説明、および数量が表示されます。
- 5 以下の情報を指定または確認します:

**[検査?]**

場合によって、入庫処理中の品目の検査を行うか指定します。トランザクションに対して[検査の入力許可]パラメータが選択されていない場合は、このフィールドは表示のみとなります。

**[発注先ロット]**

該当する場合、発注先ロットをスキャンします。

**[証明番号]**

任意で、文書をロット番号にリンク付けするには、証明番号を指定します。品目がロット管理であり、トランザクションに対して[ロット証明コードユーザ入力]パラメータが選択されている場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット番号]**

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。

**[梱包伝票数量]**

梱包伝票に記載されている数量を指定します。

**[受入済数量]**

該当する場合、受け入れる数量を指定します。トランザクションに対して[受入済数量ユーザ入力]パラメータが選択されていない場合は、このフィールドは表示のみとなります。

**[棚卸日]**

必要に応じて、棚卸日を指定します。トランザクションに対して[棚卸日ユーザ入力を認める]パラメータが選択されていない場合は、このフィールドは表示のみとなります。

**[最終入庫?]**

場合によって、現在の出荷でこのオーダーラインに対して入庫する品目がまだあるかどうかを指定します。例えば、オープン数量が100であり、この出荷で50入り1箱を入庫し、将来の出荷で50入りの1箱を入庫する場合、[はい]を指定します。この出荷で50入り2箱とも入庫している場合は、最初の箱の入庫時に[いいえ]を指定してから、2箱目の入庫時に[はい]を指定します。トランザクションに対して[最終入庫ユーザ入力]パラメータが選択されていない場合は、このフィールドは表示のみとなります。

**[シリアル/ロット入力?]**

入庫品目に対して新しいシリアル番号を生成するには、[いいえ]を選択します。既存のシリアル番号の手動スキャンを行うには、[はい]を選択します。

**[扱い単位の入力]**

このフィールドは扱い単位を使用している場合のみ表示されます。[はい]を指定して、受入中の品目に扱い単位を割り当てます。バラの在庫品目の入庫では、[いいえ]を指定します。詳細は55ページの「品目のコンテナへの入庫」を参照してください。

- 6 [処理]を選択します。シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

**[品目番号]**

品目番号と説明が表示されます。

**[残数量]**

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアル生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで[はい]を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで[はい]を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 7 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。
- 8 クロスドッキングを行う確認が表示されたときに、クロスドッキングを行うには、58 ページの「品目のクロスドッキング」を参照してください。クロスドッキングを行わない場合は、[いいえ] を指定します。
- 9 プロンプトが表示されたら、[実際の保管場所] フィールドで格納保管場所を指定します。
- 10 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベル出力画面を使用してラベルを出力する場合は、68 ページの「ラベルの出力」を参照してください。

## 品目の委託倉庫への入庫

委託入庫トランザクションを使用して、購買オーダーの一部ではない品目を委託倉庫で受け入れます。購買オーダーの品目を受け入れるには 44 ページの「品目の入庫」を参照してください。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。委託入庫はインバウンドトランザクションでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [委託入庫] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:
  - [倉庫]  
委託倉庫を指定します。
  - [購買オーダー]  
任意で、入庫した品目を追加する購買オーダーを選択します。特定の倉庫にブラケット購買オーダーが割り当てられると、このフィールドは読み取り専用になります。
  - [梱包伝票]  
梱包伝票をスキャンします。
  - [品目番号]  
品目番号をスキャンします。
  - [測定単位]  
測定単位が表示されます。
  - [ロット番号]  
該当する場合は、ロット番号をスキャンします。任意で、未入力のままにすると、新しいロット番号が生成されます。このフィールドは品目がロット管理である場合のみ表示されます。
  - [数量]  
受け入れる品目の数量を指定します。
  - [保管場所]  
品目を入庫する保管場所を指定します。このフィールドは倉庫が保管場所管理である場合にのみ表示されます。
- 3 [処理] を選択します。
- 4 該当する場合、品目を格納するかどうか確認されます。格納画面には以下の情報が表示されます。
  - オーダ番号および位置
  - 倉庫
  - 品目番号と説明
  - シリアル番号(該当する場合)
  - ロット番号(該当する場合)
  - 格納する数量
  - 推奨される格納場所

[実際の保管場所] フィールドで、格納場所を指定します。
- 5 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベルの印刷画面を使用したラベルの印刷に関する詳細は、68 ページの「ラベルの印刷」を参照してください。

## 出庫オーダ明細の発行とピックリストの確認

出庫オーダ明細の発行を使用して出荷のオーダ明細を発行またはピックリストを確認します。検品および梱包が済んではじめてオーダ明細を発行できます。出荷のため出庫する前に、オーダ明細のステータスがトランザクションにより検証されます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、インバウンドトランザクションから構成されています。出庫発行は [インバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

インバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [出庫発行] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

[発行基準]

[オーダ番号]、[実行番号]、[任務番号] のいずれで明細を発行するかを選択します。

[実行番号]

実行番号を指定します。このフィールドは実行番号または任務番号で明細を発行する場合にのみ表示されます。

[任務]

任務番号を指定します。このフィールドは任務番号で明細を発行する場合にのみ表示されます。

[オーダ区分]

オーダ区分を指定します。このフィールドはオーダ番号で明細を発行する場合にのみ表示されます。

[オーダ番号]

オーダ番号を指定します。このフィールドはオーダ番号で明細を発行する場合にのみ表示されます。

[開始位置および終了位置]

オーダ明細を発行するための位置番号の範囲を指定します。これらのフィールドで指定された位置番号およびその間にある全ての位置番号が範囲に含まれます。このフィールドはオーダ番号で明細を発行または検品する場合にのみ表示されます。

- 3 [処理] を選択します。指定の出庫オーダ明細が発行されるか、その明細にある品目がERP LNで検品済であることがマークされます。

## カンバンの作成

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、カンバンメニューから構成されています。カンバン作成はカンバンメニューでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

カンバンメニューで:

- 1 [カンバン作成] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

**[カンバンID]**

事前に定義されたカンバン番号を使用している場合、カンバン番号をスキャンします。事前に定義されたカンバン番号を使用していない場合は、このフィールドは表示されず、カンバン番号は自動的に生成されます。

**[カンバン保管場所]**

保管場所をスキャンします。

**[品目番号]**

品目番号をスキャンします。

**[カンバン数]**

現在のカンバンループにあるカンバン数が表示されます。

**[一時?]**

一時的なカンバン保管場所を作成するかどうかを指定します。一時的なカンバンを作成する場合、補充制限または失効日、もしくはその両方を指定します。

**[ループ数]**

このフィールドを利用できるのは、一時的なカンバンに限ります。任意で、失効までの補充回数を指定します。

**[失効日]**

このフィールドを利用できるのは、一時的なカンバンに限ります。任意で、カンバンが失効する日付を指定します。

**[ラベル印刷]**

カンバンにラベルを印刷するかどうかを指定します。

**[プリンタ]**

プリンタを選択します。このフィールドは [ラベルの印刷] フィールドで、[はい] を選択している場合にのみ有効です。

**[ラベル数]**

印刷するラベルの枚数を指定します。このフィールドは [ラベルの印刷] フィールドで、[はい] を選択している場合にのみ有効です。

**3 [処理] を選択します。**

## カンバンの取消

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、カンバンメニューから構成されています。カンバン取消はカンバンメニューでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

カンバンメニューで:

- 1 [カンバン取消] を選択します。
- 2 [カンバン ID] フィールドで、カンバン番号をスキャンします。次の情報が表示されます:
  - カンバン保管場所
  - 品目番号
  - カンバン数

- 3 [取消?] フィールドで、削除して使用するのための正しいカンバンがスキャンされたかどうか指定します。  
[はい] を選択すると、カンバン状況が [取消済] に変更されます。  
[いいえ] を選択すると、[カンバン ID] フィールドで、正しいカンバン番号をスキャンします。
- 4 [処理] を選択します。

## カンバン品目の納入

カンバン要求トランザクションを使用して、カンバン要求を満たすために入庫された品目をカンバン保管場所に納入します。[受入] のステータスにあるカンバンのみ納入できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、カンバンメニューから構成されています。カンバン納入は [カンバンメニュー] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

カンバンメニューで:

- 1 [カンバン納入] を選択します。
- 2 [カンバン ID] フィールドで、カンバン番号をスキャンします。次の情報が表示されます:
  - 受入予定の品目がある倉庫
  - 品目受入後の保管場所
  - 品目番号
  - 品目説明
  - 品目数量および測定単位

- 3 以下の情報を指定します:

[先倉庫]

必要に応じて、品目が納入される倉庫を指定します。[先倉庫] パラメータがトランザクション向けにオフになっている場合は、このフィールドは読み取り専用になります。

[保管先]

品目が納入される保管場所をスキャンします。[先倉庫] パラメータがトランザクション向けにオフになっている場合は、このフィールドは読み取り専用になります。

[カンバン保管場所]

カンバンの保管場所をスキャンします。[カンバン保管場所] パラメータがこのトランザクション向けにオフになっている場合は、このフィールドは読み取り専用になります。

- 4 [処理] を選択します。カンバン状況が [手持在庫] に変わります。

## カンバン補充の要求

カンバン要求トランザクションを使用して、消耗したカンバンの補充を要求します。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、カンバンメニューから構成されています。カンバン要求は [カンバンメニュー] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

カンバンメニューで:

- 1 [カンバン要求] を選択します。
- 2 [カンバン ID] フィールドで、カンバン番号をスキャンします。カンバン保管場所、品目番号および品目説明が表示されます。
- 3 [完了?] フィールドで、補充のための正しいカンバンがスキャンされたかどうか指定します。
  - a [はい] を選択すると、ERPLN に要求オーダが作成され、該当する番号が表示されます。カンバン状況が会社の ERP LN 設定により [要求済] または [承認済] に変わります。
  - b [いいえ] を選択すると、[カンバン ID] フィールドで、正しいカンバン番号をスキャンします。
- 4 [処理] を選択します。

## カンバンのリセット

カンバンリセットトランザクションを使用して、カンバンの状況を [在庫あり] にリセットします。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、カンバンメニューから構成されています。カンバンリセットはカンバンメニューでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

カンバンメニューで:

- 1 [カンバンリセット] を選択します。
- 2 [カンバン ID] フィールドで、カンバン番号をスキャンします。
- 3 [リセット?] フィールドで、リセットするための正しいカンバンがスキャンされたかどうか指定します。
  - a [はい] を選択すると、カンバン状況が [在庫あり] に変更されます。
  - b [いいえ] を選択すると、[カンバン ID] フィールドで、正しいカンバン番号をスキャンします。
- 4 [ラベル印刷] フィールドで、カンバンのラベルを印刷するかどうかを指定します。[はい] を選択して次の情報を指定します。

[プリンタ]

使用するプリンタを指定します。

[ラベル数]

印刷するラベルの数を指定します。

- 5 [処理] を選択します。

## カンバンの復元

カンバン復元トランザクションを使用して、以前に取消されたカンバンが使用できるようにします。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、カンバンメニューから構成されています。カンバン復元は [カンバンメニュー] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

カンバンメニューで:

- 1 メインメニューで、[カンバンメニュー] を選択します。
- 2 [カンバン復元] を選択します。
- 3 [カンバン ID] フィールドで、カンバン番号をスキャンします。次の情報が表示されます:
  - カンバン保管場所
  - 品目番号
  - カンバン数
- 4 [復元?] フィールドで、返品して使用するのための正しいカンバンがスキャンされたかどうか指定します。
  - a [はい] を選択すると、カンバン状況が元に戻ります。
  - b [いいえ] を選択すると、[カンバン ID] フィールドで、正しいカンバン番号をスキャンします。
- 5 [ラベル印刷] フィールドで、カンバンのラベルを印刷するかどうかを指定します。[はい] を選択して次の情報を指定します。
  - プリンタ
  - 使用するプリンタを指定します。
  - ラベル数
  - 印刷するラベルの数を指定します。
- 6 [処理] を選択します。

## カンバン状況の表示

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、カンバンメニューから構成されています。カンバンリセットはカンバンメニューでトランザクションの 1 つとしてリストされています。

カンバンメニューで:

- 1 [カンバンリセット] を選択します。
- 2 [カンバン ID] フィールドで、カンバン番号をスキャンします。次の情報が表示されます:
  - カンバン保管場所
  - 品目番号
  - オーダ区分
  - オーダ番号
  - オーダの位置
  - 状況

## コンテナの構造の作成

複数のコンテナから成るコンテナ構造を作成するには、小さいコンテナ扱い単位(子扱い単位)を大きいコンテナ扱い単位(親扱い単位)にリンクして小さいコンテナを大きいコンテナに追加することができます。例えば、ボックスをパレットに追加すると、ボックスの扱い単位をパレットの扱い単位にリンクする必要があります。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、扱い単位から構成されています。扱い単位にリンクは扱い単位でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

扱い単位で:

- 1 メインメニューで、[扱い単位] を選択します。
- 2 [扱い単位にリンク] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[親の作成]

扱い単位を新規の親扱い単位にリンクして既存の扱い単位を親として割り当てるかどうかを指定します。[はい] を選択すると、新規の親が作成されます。[いいえ] を選択した場合は、[親扱い単位] フィールドで親扱い単位を指定します。

[扱い単位]

子扱い単位を指定します。

- 4 [処理] を選択します。子扱い単位がこのトランザクション以前に別の親扱い単位にリンクされていた場合、その親とのリンクは解除されます。

## 新規コンテナの扱い単位の作成

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、扱い単位から構成されています。扱い単位の作成は扱い単位のトランザクションの 1 つとしてリストされています。

扱い単位で:

- 1 [扱い単位の作成] を選択します。
- 2 [親の作成] フィールド内で、新規の扱い単位に対して親を作成するか指定します。

[はい] を選択すると、新規の親が作成されます。

[いいえ] を選択した場合は、[親扱い単位] フィールドで親扱い単位を指定します。任意で、空欄のままにして親なしの扱い単位を作成できます。

- 3 以下の情報を指定します:

[品目]

扱い単位の品目番号を指定します。品目の説明が表示されます。

[シリアル]

シリアル番号付在庫それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

[倉庫]

扱い単位が作成される倉庫を指定します。親の扱い単位がシリアル番号を指定している場合、このフィールドは事前指定となり利用できません。

[保管場所]

必要に応じて、扱い単位が作成される保管場所を指定します。親の扱い単位がシリアル番号を指定している場合、このフィールドは事前指定となり利用できません。このフィールドは指定の倉庫が保管場所管理である場合にのみ表示されます。

[ロット]

必要に応じて、品目のロット番号を選択します。

[棚卸日]

必要に応じて、品目のロット番号を選択します。

[数量]

扱い単位に対する品目数量の指定

- 4 このトランザクションで [梱包定義入力] および [梱包品目入力] パラメータが選択されている場合、[次へ] ボタンが利用できます。[次] を選択して梱包定義情報を指定します:

[梱包定義]

梱包定義を指定します。

[梱包品目]

梱包品目を指定します。

[数量]

梱包品目の数量を指定します。

- 5 [処理] を選択します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がない場合は、扱い単位が作成されます。品目がシリアル管理の場合やロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- 6 シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存するシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合、トランザクションに対するシリアル番号の生成ができる場合、またはシリアル番号がまだスキャンされていない場合にのみこのフィールドが表示されます。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット番号]**

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合、最初のシリアル番号をスキャンすると品目ロット番号が表示されます。

**[シリアル番号]**

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[数量]**

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 7 [処理] を選択します。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアル番号およびロット番号が全てスキャンされると、扱い単位が作成されます。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## コンテナを空にする

コンテナから全ての品目を削除した場合、コンテナに割り当てられた処理ユニットを閉じるまたは削除する必要があります。コンテナを保管する場合は、再度使用ができるように処理ユニットを削除せずに閉じます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、扱い単位から構成されています。扱い単位を閉じるは扱い単位でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

扱い単位で:

- 1 [扱い単位を閉じる] を選択します。
- 2 [扱い単位] フィールドで、扱い単位を指定します。処理ユニットに子がある場合、子も同じく閉じるかどうかを確認されます。
- 3 [扱い単位を削除] フィールドで、扱い単位を削除または閉じるのどちらかを指定します。  
[はい] を選択した場合は、扱い単位が削除されます。  
[いいえ] を選択した場合は、扱い単位を閉じます。
- 4 [扱い単位を閉じる] を選択します。

## 品目のコンテナへの入庫

受入トランザクションを使用して、トランザクション内の品目に扱い単位を割り当て、それらの品目をコンテナへ入庫します。受入トランザクションを使用した品目の入庫については、44 ページの「品目の入庫」を参照してください。

- 1 受け入れる品目の数量を指定したら、[扱い単位の入力] フィールドで [はい] を指定します。

2 以下の情報を指定または確認します：

[品目番号]

品目番号が表示されます。

[梱包定義]

任意では、梱包定義を指定します。

[扱い単位]

既存の扱い単位に品目を割り当てるには、扱い単位を指定します。任意で、未入力のままにすると、新しい扱い単位が生成されます。

[親扱い単位にリンク?]

扱い単位に親を割り当てるかどうかを指定します。

3 [はい]を選択した場合は、[親扱い単位]フィールドで親扱い単位を指定します。オプションでは、[親扱い単位]を未入力のままにすると、新しい扱い単位が生成されます。

4 プロンプトが表示されたら、[実際の保管場所]フィールドで格納保管場所を指定します。

## コンテナ構造からのコンテナの削除

扱い単位のリンク解除トランザクションを使用して、コンテナをコンテナ構造から削除します。例えば、箱をパレットから削除すると、箱の扱い単位のパレットの扱い単位へのリンクを解除する必要があります。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、扱い単位から構成されています。リンク解除扱い単位は [扱い単位] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

扱い単位で：

- 1 メインメニューで、[扱い単位] を選択します。
- 2 [リンク解除扱い単位] を選択します。
- 3 [扱い単位] フィールドで、構造から削除するコンテナの扱い単位をスキャンします。親の扱い単位が表示されます。
- 4 扱い単位の親子リンク解除をするには、[処理] を選択します。

## コンテナから品目を削除

品目をコンテナから取り出す場合は、別のコンテナに追加する、またはバラの在庫品目として指定することができます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、扱い単位から構成されています。扱い単位の分割は [扱い単位] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

扱い単位で：

- 1 [扱い単位の分割] を選択します。

- 2 [扱い単位] フィールドで、品目の移動元となる作業番号を選択します。フリー在庫および子のない扱い単位のみを指定することができます。
- 3 [数量] フィールドで、コンテナから削除する数量を指定します。
- 4 [他の扱い単位に追加?] フィールドで、削除済の品目を他の扱い単位に追加するかどうかを指定します。
  - a [はい] を選択した場合は、[扱い単位に追加] フィールドで扱い単位を指定します。任意で、未入力のままにすると、新しい扱い単位が生成されます。
  - b [いいえ] を選択した場合は、品目はバラの在庫になります。
- 5 [処理] を選択します。品目がシリアル管理でない場合は、品目は新たな扱い単位に割り当てられるか、ERP LNでバラの在庫になります。品目がシリアル管理の場合やロット番号に割り当てられる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 6 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。必要なシリアルおよびロット番号が全てスキャンされると、品目が新しい扱い単位に割当されるか、ERP LN でバラの在庫記になります。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## コンテナ詳細の表示

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、扱い単位から構成されています。扱い単位照会は扱い単位のトランザクションの 1 つとしてリストされています。

扱い単位で:

- 1 [扱い単位照会] を選択します。
- 2 [扱い単位] フィールドで、コンテナの扱い単位をスキャンします。
- 3 オプションで、[シリアル番号を表示] を選択して、シリアル番号およびロット番号があれば選択します。
- 4 オプションで、[扱い単位の表示] を選択して、処理単位の子があれば選択します。扱い単位とその子に対し、以下の情報が表示されます。
  - 品目番号(マルチ品目の処理単位には表示されません)
  - 品目数量(マルチ品目の処理単位には表示されません)
  - 測定単位

## クロスドッキング品目

購買オーダー受入、ジョブ資材返品、JIT 生産受入、ジョブ作業 (最終作業)、移動オーダー受入、QCS 処分 (在庫に移動) などすべての資材のインバウンドトランザクションについて、Factory Track はクロスドッキングをサポートします。クロスドッキングパラメータ設定に基づくこの機能の一部として、システムがオープン要件を決定し、ユーザに連結したリストを提示して、ユーザが在庫に戻さずに次の処理を実行できるようにします。これは、保管場所への受入時点に品目の動的相互参照のように機能します。

- 1 クロスドッキングに進むには [はい] を選択します。
- 2 [処理] を選択します。
- 3 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベルの印刷画面を使用したラベルの印刷に関する詳細は、68 ページの「ラベルの印刷」を参照してください。  
クロスドッキングを行うことができるアウトバウンドオーダー明細の一覧が表示されます。
- 4 クロスドッキングしたい明細を選択します。次の情報が表示されます:
  - オーダ区分
  - オーダ番号
  - オーダ位置
  - 品目番号
  - オーダに必要な数量
  - クロスドッキングが可能な数量
- 5 [ドック数量] フィールドで、指定したオーダーにクロスドックする品目の数量、および測定単位を指定します。この数量は必要数量および有効数量を超えることはありません。

- 6 [保管場所] フィールドで、ステー징保管場所に納入される前の一時的な保管場所状況を指定します。
- 7 [処理] を選択します。品目がオーダーにクロスドックされます。必要数量を満たしたオーダーは、クロスドッキングリストから削除されます。
- 8 クロスドッキングが可能な品目の数量がまだ存在する場合は、クロスドッキング用にアウトバウンドオーダーの一覧が表示されます。残りの品目数量クロスドッキングさせるオーダーを選択します。オプションで、[Esc] を押してクロスドッキングトランザクションを終了します。残った品目は、スタンドアロン格納トランザクションまたは現在のトランザクションを使用して格納します(システムの設定により異なります)。

## 計画外資材出庫

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、生産モジュールから構成されています。未計画資材出庫は [生産モジュール] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

生産モジュールでの操作。

- 1 [未計画資材出庫] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:

[オーダー番号]

生産オーダー番号をスキャンします。

[作業番号]

資材を出庫する作業工程を指定します。

[品目番号]

出庫中の品目の番号をスキャンします。品目の説明が表示されます。

[倉庫]

倉庫を指定します。

[扱い単位]

該当する場合は、出庫中の品目に割当済の扱い単位をスキャンします。

[保管場所]

品目が出庫されている保管場所を指定します。

[ロット番号]

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。

[棚卸日]

該当する場合は、棚卸日を指定します。

[有効数量]

割当に有効な数量が表示されます。

[数量]

出庫する数量を指定します。

3 [処理] を選択します。

扱い単位を使用しており、コンテナの合計数量に満たない数量のコンテナから品目数量を出庫している場合は、扱い単位フォームが表示されます。[他の扱い単位に追加] フィールドで、品目を既存の扱い単位に追加するかどうかを指定します。[はい] を選択すると、[扱い単位?] フィールドの扱い単位番号をスキャンします。

シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

b [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

4 要求された場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベル印刷画面を使用する場合は、68 ページの「ラベルの印刷」を参照してください。

## コンポーネント品目の終了品目へのリンク

構築済トランザクションを使用してシリアル化された終了品目にシリアル管理またはロット管理のコンポーネント品目をリンクします。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、生産から構成されています。構築済は生産でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

生産で:

1 [構築済] を選択します。

2 以下の情報を指定します:

[品目番号]

構築済の品目番号をスキャンします。

[シリアル番号]

構築済のシリアル番号をスキャンします。

[オーダー番号]

スキャン済シリアル番号に関連するオーダー番号が表示されます。

[コンポーネント品目番号]

コンポーネント品目番号をスキャンします。

[シリアル番号]

コンポーネント品目がシリアル管理である場合には、コンポーネントシリアル番号をスキャンします。

[ロット番号]

コンポーネント品目がロット管理の場合、コンポーネントロット番号をスキャンします。

[数量]

コンポーネント数量を指定します。コンポーネント品目がシリアル管理である場合、数量は自動的に指定されます。

3 [処理] を選択します。コンポーネントがERP LNの終了品目にリンクされます。

## 完了作業の報告

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、生産から構成されています。作業報告は [生産] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

生産モジュールでの操作。

1 [作業報告] を選択します。

2 オプションで、[シリアル番号] フィールドで報告を行うためのシリアル番号をスキャンします。

3 以下の情報を指定または確認します:

[オーダー番号]

オーダー番号をスキャンします。前の画面でシリアル番号をスキャンしたら、関連するオーダー番号が表示され、このフィールドは読み取り専用になります。

[品目番号]

品目番号が表示されます。

[作業番号]

完了数量を報告する作業番号を指定します。

[シリアル番号]

任意で、報告を行うためのシリアル番号をスキャンします。前の画面でシリアル番号をスキャンしたら、シリアル番号が表示され、このフィールドは読み取り専用になります。このフィールドを利用できるのは、品目がシリアル管理の場合に限ります。

[ロット番号]

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。品目がロット管理の場合のみこのフィールドを利用でき、これがオーダの最終作業工程および完了の報告となります。

[オープン数量]

この作業においてまだ完了していない数量が表示されます。

[完了済数量]

この作業において完了した数量を入力します。

[不合格数量]

該当する場合、不合格数量を指定します。

[不合格累計]

この作業においての不合格の累計が表示されます。

[不合格コード]

必要に応じて、不合格の理由を指定します。

[完了?]

現行の作業が終了していない場合、[いいえ]を選択します。作業が終了して完了の報告を行うには、[はい]を指定します。[はい]を指定した場合、この作業にこれ以上の数量を完了させることができなくなります。このフィールドは、トランザクションに対して [ユーザ入力完了フラグ] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

4 [処理] を選択します。

5 任意で、これがオーダの最終作業であり、さらに品目で扱い単位が使用されているときには、次の情報を指定します。

[扱い単位の生成?]

報告数量に扱い単位を割り当てるかどうかを指定します。

[扱い単位?]

報告数量に割り当てている扱い単位をスキャンします。任意で、未入力のままにすると、新しい扱い単位が生成されます。このフィールドを利用できるのは、報告数量に扱い単位を割り当てている場合に限ります。

6 新しい扱い単位を生成する場合は、新しい扱い単位のラベルを印刷します。トランザクションが扱い単位ラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、扱い単位ラベル画面が表示されます。扱い単位のラベルの印刷に関する情報は、68 ページの「ラベルの印刷」を参照してください。

- 7 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベル出力画面を使用してラベルを出力する場合は、68 ページの「ラベルの出力」を参照してください。

## 完了生産の報告

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、生産から構成されています。生産報告は [生産] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

生産モジュールでの操作。

- 1 [生産報告] を選択します。
- 2 [オーダー番号] フィールドに、生産オーダーをスキャンします。このトランザクションの参照IDとしてシリアル番号をスキャンした場合は、生産オーダー番号は自動で指定されます。
- 3 以下の情報を指定します：

[完了]

生産された数量を指定します。品目がシリアル管理またはロット管理であり、ロット番号付在庫管理ではない場合、このフィールドは表示されません。

[不合格]

必要に応じて、不合格数量を指定します。

[不合格コード]

不合格の理由コードを指定します。このフィールドは品目を不合格とする場合のみ表示されます。

[シフト]

品目を生産中のシフトを指定します。

[完了]

オーダーに対してすべての品目が生産された場合は、[はい] を指定します。まだ生産品目が残っている場合は、[いいえ] を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [ユーザ入力完了フラグ] パラメータが選択されている場合にのみ表示されます。

[保管場所]

必要に応じて、完了品目の格納保管場所を指定します。品目が保管場所管理であり、トランザクションに対して [格納] パラメータを選択している場合のみ、このフィールドが表示されます。

- 4 [処理] を選択します。シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアル生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで[はい]を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?]フィールドで[はい]を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 5 [処理]を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。
- 6 クロスドッキングを行う確認が表示されたときに、クロスドッキングを行うには、58 ページの「品目のクロスドッキング」を参照してください。クロスドッキングを行わない場合は、[いいえ]を指定します。
- 7 任意で、これがオーダの最終作業であり、さらに品目で扱い単位が使用されているときには、次の情報を指定します。

[扱い単位の生成?]

報告数量に扱い単位を割り当てるかどうかを指定します。

[扱い単位?]

- 8 新しい扱い単位を生成する場合は、新しい扱い単位のラベルを印刷します。トランザクションが扱い単位ラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、扱い単位ラベル画面が表示されます。扱い単位のラベルの印刷に関する情報は、68 ページの「ラベルの印刷」を参照してください。
- 9 該当する場合は、ラベルを印刷します。トランザクションがラベルを印刷するように設定されていると、ラベルが自動的に印刷されるか、あるいはラベル印刷画面が表示されます。ラベル出力画面を使用してラベルを出力する場合は、68 ページの「ラベルの出力」を参照してください。

## 生産からの品目の返品

資材返品トランザクションを使用して、過去に生産オーダーに出庫された品目を在庫に返品します。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、生産から構成されています。資材返品は [生産] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

生産モジュールでの操作。

- 1 [資材返品] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します：

[オーダー番号]

資材が返品されている生産オーダー番号をスキャンします。

[品目番号]

返品する品目番号をスキャンします。品目の説明が表示されます。

[位置]

必要に応じて、オーダーの品目の位置を指定します。位置がデフォルトで指定されていることがあります。

[倉庫]

品目が返品されている倉庫を指定します。

[ロット番号]

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。

[数量]

在庫に返品する数量を指定します。

[保管場所]

品目を返品する保管場所を指定します。

[扱い単位の生成?]

返品品目に扱い単位を割り当てるかどうかを指定します。トランザクションに対して [扱い単位の入力を許可] パラメータを選択している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[扱い単位]

返品品目に割り当てる扱い単位をスキャンします。任意で、未入力のままにすると、新しい扱い単位が生成されます。[扱い単位の生成?] フィールドで、[はい] を指定している場合にのみ、このフィールドが表示されます。

- 3 [処理] を選択します。
- 4 シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアル生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 5 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## チームの加入

チームの管理トランザクションを使用してチームに加入します。チームに加入する前に、シフトを開始する必要があります。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、作業トランザクションから構成されています。チームの管理は [作業トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

作業トランザクションでの操作。

- 1 [チームの管理] を選択します。
- 2 [チーム] フィールドで、チームを指定します。チームメンバの現在の番号がチーム員数フィールドに表示されます。オプションで、チームの従業員を表示するには、[メンバ] を選択します。
- 3 [バッジ] フィールドで、従業員 ID 番号またはバッジ番号をスキャンします。
- 4 [チーム加入] を選択します。

## チームの脱退

チームの管理トランザクションを使用してチームを脱退します。チームを脱退する前に、シフトを開始する必要があります。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、作業トランザクションから構成されています。チームの管理は [作業トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

作業トランザクションでの操作。

- 1 [チームの管理] を選択します。
- 2 [チーム] フィールドで、チームを指定します。チームメンバの現在の番号が [チーム員数] フィールドに表示されます。オプションで、チームの従業員を表示するには、[メンバ] を選択します。
- 3 [バッジ] フィールドで、従業員 ID 番号またはバッジ番号をスキャンします。
- 4 オプションで、[新規チーム] フィールドで加入する新規チームを選択します。現在のチームを脱退して新規チームに加入します。
- 5 [チーム脱退] を選択します。

## 従業員の状況のリセット

従業員のリセットトランザクションを使用して、従業員の状態をアイドルに戻します。従業員のシフトが終了すると、従業員はチームから削除され、どの活動への割り当ても解除されます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、作業トランザクションから構成されています。従業員のリセットは [作業トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

作業トランザクションでの操作。

- 1 [従業員のリセット] を選択します。
- 2 [従業員] フィールドで、従業員 ID 番号またはバッジ番号をスキャンします。
- 3 [従業員のリセット] を選択します。

## シフトの開始

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、作業トランザクションから構成されています。シフトの開始/中止は [作業トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

作業トランザクションでの操作。

- 1 [シフトの開始/中止] を選択します。
- 2 [従業員] フィールドで、従業員 ID 番号またはバッジ番号をスキャンします。
- 3 [シフト] フィールドで、シフトを指定して開始します。デフォルトで、デフォルトシフトが指定されています。
- 4 [シフト開始] を選択します。

## シフトの停止

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、作業トランザクションから構成されています。シフトの開始/中止は [作業トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

作業トランザクションでの操作。

- 1 [シフトの開始/中止] を選択します。
- 2 [従業員] フィールドで、従業員 ID 番号またはバッジ番号をスキャンします。シフトおよび開始時間が表示されます。
- 3 [シフトの停止] を選択します。

## チームを表示

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、作業トランザクションから構成されています。チームの管理は [作業トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

作業トランザクションでの操作。

- 1 [チームの管理] を選択します。
- 2 [チーム] フィールドで、チームを指定します。チームメンバーの現在の番号がチーム員数フィールドに表示されます。
- 3 [メンバー] を選択。チームに現在割り当てられている従業員が表示されます。

## ラベルの印刷

多くの Warehouse Mobility トランザクションでラベル印刷が可能です。トランザクションに対して [ラベル印刷] パラメータが選択されていると、トランザクション完了時点でラベルの印刷処理を開始します。扱い単位、カンバン、複数シリアル番号品目、複数ロット番号品目のラベルの印刷には、基本ラベルとは異なる別の印刷プロセスがあります。

95 ページの「基本ラベルの印刷」を参照してください。

95 ページの「扱い単位、カンバン、複数シリアル番号品目、複数ロット番号品目のラベルの印刷」を参照してください。

## 梱包のロード

出荷に関連付けられている封印済梱包のみをロードできます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。ロードは [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [ロード中] を選択します。
- 2 梱包の扱い単位をスキャンします。
- 3 以下の情報を指定または確認します:

[扱い単位]

梱包の扱い単位が表示されます。

[出荷番号]

扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。

[積荷番号]

出荷に関連する積荷番号が表示されます。

[梱包品目]

任意で、梱包に対して新しい梱包品目を指定します。梱包に現在割り当てられている梱包品目が表示されます。

[事前指定ドック]

積荷が事前指定されているドックが表示されます。このフィールドは ERP LN で事前指定ドックを使用している場合のみ表示されます。

[積荷?]

梱包をロードするには [はい] を選択します。

[ドック]

梱包をロードするドックを指定します。このフィールドを空欄または同じ積荷の別の梱包に使用されたドックを指定すると、積荷は分割されます。ERP LN で、[積荷] 梱包パラメータが選択されている場合にのみ、積荷を分割できます。

[荷降?]

梱包の荷降では、このフィールドは利用できません。

[新規出荷?]

任意で、梱包に対する新規出荷を作成するかどうかを指定します。このフィールドを利用できるのは積荷を分割している場合のみです。

[出荷番号]

梱包を移動するための出荷を指定します。このフィールドは、積荷を分割し、新規出荷を作成している場合にのみ利用できます。

- 4 [処理] を選択します。

## 梱包の荷降

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。ロードは [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包モジュールでの操作。

- 1 [ロード中] を選択します。
- 2 梱包の扱い単位をスキャンします。
- 3 以下の情報を指定または確認します:

[扱い単位]

梱包の扱い単位が表示されます。

[出荷番号]

扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。

[積荷番号]

出荷に関連する積荷番号が表示されます。

[梱包品目]

任意で、梱包に対して新しい梱包品目を指定します。梱包に現在割り当てられている梱包品目が表示されます。

[事前指定ドック]

積荷が事前指定されているドックが表示されます。このフィールドは ERP LN で事前指定ドックを使用している場合のみ表示されます。

[積荷?]

梱包の荷降では、このフィールドは利用できません。

[ドック]

梱包の荷降では、このフィールドは利用できません。

[荷降?]

梱包の荷降には、[はい] を指定します。

[新規出荷?]

梱包の荷降では、このフィールドは利用できません。

[出荷番号]

梱包の荷降では、このフィールドは利用できません。

- 4 [処理] を選択します。

## オーダー別品目の梱包

オーダー別梱包トランザクションを使用して、オーダーに対して品目の梱包を行います。このトランザクションを使用して品目を梱包する方法は 2 つあります：

- 事前梱包品目の使用:  
オーダーラインの品目が、出荷要件を満たすコンテナ構造で既に梱包されている場合に、この梱包方法を使用します。コンテナ構造が正しいことを確認できます。あるいはコンテナ構造に問題がある場合は、構造を分解して手動で再構築することもできます。  
「梱包済品目を使用したオーダー別品目の梱包」を参照してください。
- 事前定義構造を使用しない品目の梱包  
オーダーラインの品目が特定のコンテナ構造に一致する必要がない場合に、この梱包方法を使用します。状況に応じたコンテナ構造を任意に作成することができます。  
71 ページの「事前定義構造を使用しないオーダー別品目の梱包」を参照してください。

オーダーに対して複数の梱包方法の使用が必要な場合もあります。

## 事前定義構造を使用しないオーダー別品目の梱包

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。オーダー別梱包は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [オーダー別梱包] を選択します。
- 2 以下のすべてまたは一部の情報を指定します。  
[扱い単位]  
このフィールドを空のままにします。  
[オーダー区分]  
任意では、オーダーのオーダー区分を選択します。  
[オーダー番号]  
任意では、オーダーのオーダー番号をスキャンします。  
[品目番号]  
任意で、品目番号をスキャンします。  
[ロット番号]  
任意で、該当する場合は、ロット番号をスキャンします。  
[シリアル番号]  
任意で、単一シリアル番号付在庫品目を使用してこのトランザクションを実行している場合は、シリアル番号をスキャンします。それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。
- 3 [次へ] を選択します。指定した情報を使用して、梱包が必要な関連オーダー明細の検索が実行されます。複数のオーダー明細が見つかり、オーダー明細のリストが表示されます。このリストから梱包するオーダー明細を選択します。

4 以下の情報を指定または確認します：

[オーダ番号]

梱包しているオーダが表示されます。

[梱包]

梱包に使用する梱包を指定します。梱包は封印しないでください。任意で、空欄のままにして新規梱包を使用します。

[梱包品目]

梱包に使用する梱包品目を指定します。既存の梱包を使用している場合は、正しい梱包品目がデフォルトで指定されることもあります。

[位置番号]

梱包しているオーダ明細が表示されます。梱包している明細が同じストックポイントのシリアル番号をもつ複数のオーダ明細で構成されている場合、このフィールドは空になります。

[品目番号]

梱包している品目が表示されます。

[ロット番号]

場合によって、ロット番号が表示されます。

[梱包解除数量]

オーダ明細の梱包解除数量が表示されます。

[数量]

梱包する数量を入力します。

[シリアル/ロットの入力?]

梱包しているシリアル番号とロットを正確に記録するかを指定します。このフィールドを利用できるのは、梱包している品目がシリアル管理かロット管理である場合に限りです。

5 [処理] を選択します。

[シリアル/ロットの入力?] フィールドで [はい] を選択している場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい] を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ] を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい] を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット番号]**

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

**[シリアル番号]**

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[数量]**

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- b** [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

オーダ明細の品目の指定数量は梱包済です。新しい梱包を使用している場合は、梱包ラベルが印刷されます。

## 事前定義構造を使用した出荷別品目の梱包

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。出荷別梱包は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [出荷別梱包] を選択します。
- 2 以下のすべてまたは一部の情報を指定します。

**[扱い単位]**

このフィールドを空のままにします。

**[出荷]**

任意で、梱包する出荷をスキャンします。

**[オーダ区分]**

任意で、出荷のオーダ区分を選択します。

**[オーダ番号]**

任意で、出荷のオーダ番号をスキャンします。

**[品目番号]**

任意で、品目番号をスキャンします。

**[ロット番号]**

任意で、該当する場合は、ロット番号をスキャンします。

[シリアル番号]

任意で、単一シリアル番号付在庫品目を使用してこのトランザクションを実行している場合は、シリアル番号をスキャンします。それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

- 3 [次へ] を選択します。指定した情報を使用して、梱包が必要な関連出荷ラインの検索が実行されず。複数の出荷ラインが見つかり、出荷ラインのリストが表示されます。このリストから梱包する出荷ラインを選択します。

扱い単位が他の扱い単位を含んでいる場合、梱包する子扱い単位の一覧とともに、それらの親扱い単位番号、出荷番号、梱包記述が表示されます。梱包する子扱い単位を選択します。

扱い単位が他の扱い単位を含まない場合、梱包する扱い単位を選択する必要はありません。例えば、5つの箱(子扱い単位)を含むパレット(親扱い単位)を梱包する場合、以下のステップで5つの箱を個別に梱包した後に、パレットを梱包します。しかし、扱い単位に割り当てられた箱に入っていない別々の品目の入ったパレットを梱包する場合、他の扱い単位を梱包せずにパレットを梱包できます。

- 4 以下の情報を指定または確認します：

[親扱い単位]

梱包を行う扱い単位の親が表示されます。このフィールドは扱い単位が親を持つ場合にのみ表示されます。

[扱い単位]

梱包される扱い単位が表示されます。

[出荷番号]

扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。

[梱包定義]

扱い単位の梱包定義が表示されます。

[品目番号]

品目番号が表示されます。

[数量]

扱い単位に含まれる品目数量が表示されます。

[確認?]

扱い単位構造が正しく梱包されたことを確認すべきかを指定します。

[分割?]

扱い単位を再梱包用に分割するかを指定します。扱い単位に問題がある場合は、[はい] を選択してください。[確認?] フィールドで、[はい] を選択している場合にのみ、このフィールドが表示されます。

- 5 [処理] を選択します。出荷明細において梱包を必要とする追加の扱い単位がある場合、前述の説明に沿って追加で梱包する扱い単位を選択します。梱包する追加の扱い単位がひとつのみの場合、自動で選択されます。

出荷明細上のすべての確認済扱い単位は梱包されます。扱い単位が破損して再梱包が必要な場合、それらは出荷明細から削除され、品目数量に代理扱い単位が作成されます。全ての梱包済扱い単位の梱包ラベルが印刷されます。

## 出荷別品目の梱包

出荷別梱包トランザクションを使用して、出荷に対して品目の梱包を行います。このトランザクションを使用して品目を梱包する方法は 3 つあります:

- 事前梱包品目の使用:  
出荷ラインの品目が、出荷要件を満たすコンテナ構造で既に梱包されている場合に、この梱包方法を使用します。コンテナ構造が正しいことを確認できます。あるいはコンテナ構造に問題がある場合は、構造を分解して手動で再構築することもできます。  
77 ページの「梱包済品目を使用した出荷別品目の梱包」を参照してください。
- 事前定義構造を使用した品目の梱包  
出荷ラインの品目が、ピックされた品目の現在の構造に一致しない事前指定のコンテナ構造で梱包される必要がある場合に、この梱包方法を使用します。出荷要件を満たす品目に対するコンテナ構造を作成することができます。  
73 ページの「事前定義構造を使用した出荷別品目の梱包」を参照してください。
- 事前定義構造を使用しない品目の梱包  
出荷ラインの品目が特定のコンテナ構造に一致する必要がない場合に、この梱包方法を使用します。状況に応じたコンテナ構造を任意に作成することができます。  
77 ページの「事前定義構造を使用しない出荷別品目の梱包」を参照してください。

出荷に対して複数の梱包方法の使用が必要な場合もあります。

## 事前定義構造を使用した出荷別品目の梱包

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。出荷別梱包は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [出荷別梱包] を選択します。
- 2 以下のすべてまたは一部の情報を指定します。

[扱い単位]

このフィールドを空のままにします。

[出荷]

任意で、梱包する出荷をスキャンします。

[オーダ区分]

任意で、出荷のオーダ区分を選択します。

[オーダ番号]

任意で、出荷のオーダ番号をスキャンします。

[品目番号]

任意で、品目番号をスキャンします。

[ロット番号]

任意で、該当する場合は、ロット番号をスキャンします。

[シリアル番号]

任意で、単一シリアル番号付在庫品目を使用してこのトランザクションを実行している場合は、シリアル番号をスキャンします。それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

- 3 [次へ] を選択します。指定した情報を使用して、梱包が必要な関連出荷ラインの検索が実行されます。複数の出荷ラインが見つかり、出荷ラインのリストが表示されます。このリストから梱包する出荷ラインを選択します。

扱い単位が他の扱い単位を含んでいる場合、梱包する子扱い単位の一覧とともに、それらの親扱い単位番号、出荷番号、梱包記述が表示されます。梱包する子扱い単位を選択します。

扱い単位が他の扱い単位を含まない場合、梱包する扱い単位を選択する必要はありません。例えば、5つの箱(子扱い単位)を含むパレット(親扱い単位)を梱包する場合、以下のステップで5つの箱を個別に梱包した後に、パレットを梱包します。しかし、扱い単位に割り当てられた箱に入っていない別々の品目の入ったパレットを梱包する場合、他の扱い単位を梱包せずにパレットを梱包できます。

- 4 以下の情報を指定または確認します：

[親扱い単位]

梱包を行う扱い単位の親が表示されます。このフィールドは扱い単位が親を持つ場合にのみ表示されます。

[扱い単位]

梱包される扱い単位が表示されます。

[出荷番号]

扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。

[梱包定義]

扱い単位の梱包定義が表示されます。

[品目番号]

品目番号が表示されます。

[数量]

扱い単位に含まれる品目数量が表示されます。

[確認?]

扱い単位構造が正しく梱包されたことを確認すべきかを指定します。

[分割?]

扱い単位を再梱包用に分割するかを指定します。扱い単位に問題がある場合は、[はい] を選択してください。[確認?] フィールドで、[はい] を選択している場合にのみ、このフィールドが表示されます。

- 5 [処理] を選択します。出荷明細において梱包を必要とする追加の扱い単位がある場合、前述の説明に沿って追加で梱包する扱い単位を選択します。梱包する追加の扱い単位がひとつのみの場合、自動で選択されます。

出荷明細上のすべての確認済扱い単位は梱包されます。扱い単位が破損して再梱包が必要な場合、それらは出荷明細から削除され、品目数量に代理扱い単位が作成されます。全ての梱包済扱い単位の梱包ラベルが印刷されます。

## 梱包済品目を使用した出荷別品目の梱包

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。出荷別梱包は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [出荷別梱包] を選択します。
- 2 [扱い単位] フィールドで、梱包する扱い単位をスキャンします。
- 3 以下の情報を指定または確認します：
  - [扱い単位]  
梱包される扱い単位が表示されます。
  - [出荷番号]  
扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。
  - [梱包定義]  
扱い単位の梱包定義が表示されます。
  - [確認?]  
扱い単位構造が正しく、梱包として確認すべきかを指定します。
  - [分割?]  
扱い単位を再梱包用に分割するかを指定します。扱い単位に問題がある場合は、[はい] を選択してください。[確認?] フィールドで、[はい] を選択している場合にのみ、このフィールドが表示されます。
- 4 [処理] を選択します。扱い単位は梱包として確認されるか、再梱包するために分割されます。扱い単位が梱包として確認される場合は、その梱包が含まれる扱い単位はすべて梱包として確認されます。扱い単位が再梱包のために分割される場合、扱い単位は出荷明細から削除され、品目数量の説明には代理扱い単位が作成されます。

## 事前定義構造を使用しない出荷別品目の梱包

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。出荷別梱包は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [出荷別梱包] を選択します。
- 2 以下のすべてまたは一部の情報を指定します。
  - [扱い単位]  
このフィールドを空のままにします。
  - [出荷]  
任意で、梱包する出荷をスキャンします。
  - [オーダ区分]  
任意で、出荷のオーダ区分を選択します。

[オーダ番号]

任意で、出荷のオーダ番号をスキャンします。

[品目番号]

任意で、品目番号をスキャンします。

[ロット番号]

任意で、該当する場合は、ロット番号をスキャンします。

[シリアル番号]

任意で、単一シリアル番号付在庫品目を使用してこのトランザクションを実行している場合は、シリアル番号をスキャンします。それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。

- 3 [次へ] を選択します。指定した情報を使用して、梱包が必要な関連出荷ラインの検索が実行されます。複数の出荷ラインが見つかり、出荷ラインのリストが表示されます。このリストから梱包する出荷ラインを選択します。

- 4 以下の情報を指定または確認します：

[出荷番号]

梱包している出荷が表示されます。

[梱包]

梱包に使用する梱包を指定します。梱包は封印しないでください。任意で、空欄のままにして新規梱包を使用します。

[梱包品目]

梱包に使用する梱包品目を指定します。既存の梱包を使用している場合は、正しい梱包品目がデフォルトで指定されることもあります。

[位置番号]

梱包している出荷明細が表示されます。梱包している明細が、同じストックポイントのシリアル番号がついた複数の出荷明細で構成される場合は、このフィールドは空になります。

[品目番号]

梱包している品目が表示されます。

[ロット番号]

場合によって、ロット番号が表示されます。

[梱包解除数量]

出荷明細の梱包解除数量が表示されます。

[数量]

梱包する数量を入力します。

[シリアル/ロットの入力?]

梱包しているシリアル番号とロットを正確に記録するかを指定します。このフィールドを利用できるのは、梱包している品目がシリアル管理かロット管理である場合に限りです。

- 5 [処理] を選択します。

[シリアル/ロットの入力?] フィールドで [はい] を選択している場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

**[品目番号]**

品目番号と説明が表示されます。

**[残数量]**

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

**[シリアルの生成?]**

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

**[全シリアル?]**

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[ロット番号]**

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

**[シリアル番号]**

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

**[数量]**

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- b** [処理]を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

出荷明細の品目の指定数量は梱包済です。新しい梱包を使用している場合は、梱包ラベルが印刷されます。

## 品目の再梱包

各再梱包トランザクションにおいて、以下のいずれかを実行できます(複数可)。

- 梱包を他の梱包に追加
- 梱包を他の梱包から削除
- 梱包解除

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。再梱包は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [再梱包] を選択します。
- 2 再梱包を行う梱包の扱い単位をスキャンします。梱包の封印状態は問いません。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[扱い単位]

扱い単位が表示されます。

[出荷番号]

扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。

[オーダ番号]

扱い単位に関連付けられているオーダ番号が表示されます。

[梱包品目]

任意で、梱包に対して新しい梱包品目を指定します。梱包に現在割り当てられている梱包品目が表示されます。

[追加対象]

梱包を他の梱包に追加するかどうかを指定します。このフィールドは親梱包をもたない場合にのみ利用できます。

[削除対象]

親梱包からこの梱包を削除するかどうか指定します。このフィールドは、梱包が親梱包に含まれる場合にのみ利用できます。

[親扱い単位]

この梱包を追加する対象を指定します。指定した梱包は封印しないでください。任意では、空欄のままにして新規梱包を作成できます。このフィールドは、梱包を他の梱包に追加しているときにのみ利用できます。

[梱包品目]

使用する梱包品目を指定します。このフィールドは、梱包を他の梱包に追加しているときにのみ利用できます。

[梱包解除]

梱包解除するかどうかを指定します。梱包解除するには封印しないでください。このフィールドは親梱包をもたない、かつ現在追加されていない場合にのみ利用できます。

- 4 [処理] を選択します。

## 梱包の封印

封印後、その梱包に関連する出荷明細の凍結を選択することもできます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。封印は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包モジュールでの操作。

- 1 [封印] を選択します。
- 2 梱包の扱い単位をスキャンします。梱包はロードしないでください。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[扱い単位]

梱包の扱い単位が表示されます。

[出荷番号]

扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。

[オーダ番号]

扱い単位に関連付けられているオーダ番号が表示されます。

[梱包品目]

任意で、梱包に対して新しい梱包品目を指定します。梱包に現在割り当てられている梱包品目が表示されます。

[封印?]

梱包を封印するには [はい] を指定します。この梱包に含まれる子の梱包も同様に封印されます。

[開梱?]

梱包の封印では、このフィールドは利用できません。

[子?]

梱包の封印では、このフィールドは利用できません。

- 4 [処理] を選択します。この梱包に関連する出荷明細を凍結するかどうかを尋ねられます。この出荷明細を凍結するには、[はい] を選択します。凍結しない場合は、[いいえ] を選択します。

## 梱包の開梱

梱包の開梱後は、その梱包に関連する出荷明細の凍結を解除することができます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。封印は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包モジュールでの操作。

- 1 [封印] を選択します。
- 2 梱包の扱い単位をスキャンします。梱包はロードしないでください。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[扱い単位]

梱包の扱い単位が表示されます。

[出荷番号]

扱い単位に関連付けられている出荷番号が表示されます。

[オーダ番号]

扱い単位に関連付けられているオーダ番号が表示されます。

[梱包品目]

任意で、梱包に対して新しい梱包品目を指定します。梱包に現在割り当てられている梱包品目が表示されます。

[封印?]

梱包の封印では、このフィールドは利用できません。

[開梱?]

梱包を開梱するには、[はい] を指定します。

[子?]

この梱包に含まれる子梱包も同じく開梱するには、[はい] を指定します。親梱包のみを開梱するには、[いいえ] を指定します。

- 4 [処理] を選択します。梱包に関連する出荷明細の凍結を解除するかどうか確認されます。出荷明細の凍結を解除するには、[はい] を選択します。そのままにしておくには、[いいえ] を選択します。

## 梱包の表示

梱包照会トランザクションを使用して、出荷またはオーダの梱包階層を表示します。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、梱包から構成されています。梱包照会は [梱包] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

梱包での操作。

- 1 [梱包照会] を選択します。
- 2 以下のすべてまたは一部の情報を指定します。

[扱い単位]

任意では、出荷またはオーダに関連付けられている扱い単位出荷番号をスキャンします。

[出荷]

任意では、出荷番号をスキャンします。

[オーダ区分]

任意では、オーダ区分を指定します。

[オーダ番号]

任意では、オーダ番号をスキャンします。

- 3 [次へ] を選択します。上で指定した情報を使用して、関連のある出荷またはオーダ明細の検索を実行します。各行に対し、次の情報が表示されます。
  - 明細状況
  - 明細番号
  - 品目番号
  - 品目数量
  - 扱い単位
  - 梱包定義

- 4 任意で、明細に関連した梱包が子を持っている場合、その行を選択すると子の情報が表示されます。各子梱包に対し、次の情報が表示されます。
- 明細状況
  - 明細番号
  - 品目番号
  - 品目数量
  - 扱い単位
  - 梱包定義

## 出荷の管理

各出荷処理トランザクションにおいて、以下のいずれかを実行できます(複数可)。

- 出荷確認
- 出荷の凍結
- 出荷の凍結解除
- 梱包伝票の印刷
- 積荷表の印刷

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、アウトバウンドトランザクションから構成されています。出荷用扱い単位は、アウトバウンドトランザクションでトランザクションの1つとしてリストされています。

アウトバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [出荷用扱い単位] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:

[オーダー区分]

オーダー区分を指定します。

[オーダー番号]

任意で、オーダー番号を用いて出荷を指定するには、オーダー番号をスキャンします。

[出荷]

任意で、出荷番号を用いて出荷を指定するには、出荷番号をスキャンします。オーダー番号をスキャンすると、関連する出荷が表示されます(読み取り専用)。

[積荷]

出荷に関連する積荷番号が表示されます。

[凍結?]

出荷を停止するかどうかを指示します。関連する積荷に複数の出荷が存在する場合、積荷内の全ての出荷を凍結するかどうかを確認されます。このフィールドは、トランザクションの [凍結を許可?] パラメータが選択され、かつ出荷が凍結されていない場合にのみ利用できます。

[凍結を解除?]

出荷の凍結を解除するかどうかを指示します。関連する積荷内において複数の出荷が存在する場合、全ての出荷の凍結を解除するかどうかを確認されます。このフィールドは、トランザクションの [凍結を解除?] パラメータが選択され、かつ出荷が凍結されていない場合にのみ利用できます。

[確認?]

出荷を確定するかどうかを指定します。出荷を確定すると、関連する積荷に複数の出荷が存在する場合、その全ての出荷が確定されます。このフィールドは、トランザクションの [確定を許可?] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

[梱包伝票の印刷?]

梱包伝票を印刷するかどうかを指定します。関連する積荷内において複数の出荷が存在する場合、全ての出荷の梱包伝票を印刷するかを確認されます。このフィールドは、トランザクションの [梱包伝票の印刷?] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

[積荷表を印刷?]

出荷の積荷表を印刷するかどうかを指定します。関連する積荷内において複数の出荷が存在する場合、全ての出荷の積荷表を印刷するかを確認されます。このフィールドは、トランザクションの [梱包伝票の印刷?] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

3 [処理] を選択します。

## 品目のピック

オーダー別品目、任務別品目、または実行別品目のピックが可能です。

84 ページの「オーダー別品目のピック」を参照してください。

86 ページの「任務別品目のピック」を参照してください。

88 ページの「実行別品目のピック」を参照してください。

## オーダー別品目のピック

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、アウトバウンドトランザクションから構成されています。ピックは [アウトバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

アウトバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [ピック] を選択します。
- 2 [ピック基準] フィールドで、[オーダー] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[オーダー区分]

オーダー区分を選択します。

## [オーダ]

オーダ番号をスキャンします。

## [ステージ場所]

品目のピック時点と納入時点の間における品目の保管場所の状況を指定します。

## [カートの場合]

カートの場所をスキャンします。

## [新規実行番号]

表示されたピックリストにない場合の、ピックされた品目が割り当てられた実行番号です。

- 4 [次へ] を選択します。
- 5 ピックする品目を選択します。
- 6 場合によって、以下のストックポイントの情報を指定します。

## [品目番号]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [品目番号のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [扱い単位]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [扱い単位のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [保管場所]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [保管場所のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [ロット番号]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [ロット番号のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [棚卸日]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [棚卸日のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

- 7 [数量] フィールドで、ピックする品目の数量を指定します。
- 8 カンバン転送オーダのピックを行っている場合のみ、[先保管場所] フィールドで、カンバン補充場所を指定します。
- 9 [処理] を選択します。

扱い単位を使用しており、コンテナの合計数量に満たない数量のコンテナから品目数量をピックしている場合は、扱い単位フォームが表示されます。[他の扱い単位に追加] フィールドで、品目を既存の扱い単位に追加するかどうかを指定します。[はい] を選択すると、[扱い単位?] フィールドの扱い単位番号をスキャンします。

指定した数量がピックリストの数量より少ない場合、一部ピックを実行しているか確認メッセージが表示される場合があります。このストックポイントから品目をさらにピックするために戻するには、[はい] を指定します。このストックポイントから品目をさらにピックしない場合は、[いいえ] を指定します。損失資材があるかどうか確認される場合もあります。品目が欠落している場合は、[はい] を指定します。欠落品目は保留保管場所へ移動されます。品目が欠落していない場合は、[いいえ] を指定します。

シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

a [シリアル/ロット入力] 画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 10 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## 任務別品目のピック

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、アウトバウンドトランザクションから構成されています。ピックは [アウトバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

アウトバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [ピック] を選択します。
- 2 [ピック基準] フィールドで、[任務] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[実行番号]

この要求に対する実行番号をスキャンします。

## [開始任務]と[終了任務]

任意では、任務の項目を表示するための任務番号の範囲を指定します。これらのフィールドで指定された任務番号、およびその間にある全ての位置番号が範囲に含まれます。

## [開始ピック順序]および[終了ピック順序]

任意では、順序の項目を表示するための順序の範囲を指定します。これらのフィールドで指定された順序番号、およびその間にある全ての位置番号が範囲に含まれます。

## [ステージ場所]

品目のピック時点と納入時点の間における品目の保管場所の状況を指定します。

## [カートの場合]

カートの場所をスキャンします。

## [新規実行番号]

表示されたピックリストにない場合の、ピックされた品目が割り当てられた実行番号です。

- 4 [次へ]を選択します。ピックする品目のリストが表示されます。
- 5 品目を選択します。
- 6 場合によって、以下のストックポイントの情報を指定します。

## [品目番号]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [品目番号のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [扱い単位]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [扱い単位のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [保管場所]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [保管場所のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [ロット番号]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [ロット番号のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

## [棚卸日]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [棚卸日のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

- 7 [数量] フィールドで、ピックする品目の数量を指定します。
- 8 必要に応じて、[先保管場所] フィールドで、カンバン補充場所を指定します。カンバン転送オーダのピックを行っている場合にのみ、この保管場所を指定する必要があります。
- 9 [処理]を選択します。  
扱い単位を使用しており、コンテナの合計数量に満たない数量のコンテナから品目数量をピックしている場合は、扱い単位フォームが表示されます。[他の扱い単位に追加] フィールドで、品目を既存の扱い単位に追加するかどうかを指定します。[はい]を選択すると、[扱い単位?] フィールドの扱い単位番号をスキャンします。

指定した数量がピックリストの数量より少ない場合、一部ピックを実行しているか確認メッセージが表示される場合があります。このストックポイントから品目をさらにピックするために戻するには、[はい]を指定します。このストックポイントから品目をさらにピックしない場合は、いいえを指定します。損失資

材があるかどうか確認される場合もあります。品目が欠落している場合は、[はい]を指定します。欠落品目は保留保管場所へ移動されます。品目が欠落していない場合は、[いいえ]を指定します。

シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで[はい]を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで[はい]を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 10 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## 実行別品目のピック

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、アウトバウンドトランザクションから構成されています。ピックは [アウトバウンドトランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされています。

アウトバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [ピック] を選択します。
- 2 [ピック基準] フィールドで、[実行] を選択します。
- 3 以下の情報を指定します:

[実行番号]

この要求に対する実行番号をスキャンします。

[ステージ場所]

品目のピック時点と納入時点の間における品目の保管場所の状況を指定します。

[カートの場合]

カートの場所をスキャンします。

[新規実行番号]

表示されたピックリストにない場合の、ピックされた品目が割り当てられた実行番号です。

- 4 [次へ] を選択します。ピックする品目のリストが表示されます。
- 5 品目を選択します。
- 6 場合によって、以下のストックポイントの情報を指定します。

[品目番号]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [品目番号のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

[扱い単位]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [扱い単位のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

[保管場所]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [保管場所のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

[ロット番号]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [ロット番号のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

[棚卸日]

品目番号をスキャンします。トランザクションに対して [棚卸日のスキャン] パラメータが選択されていると、品目番号のスキャンのみが必要です。

- 7 [数量] フィールドで、ピックする品目の数量を指定します。
- 8 必要に応じて、[先保管場所] フィールドで、カンバン補充場所を指定します。カンバン転送オーダーのピックを行っている場合にのみ、この保管場所を指定する必要があります。
- 9 [処理] を選択します。

扱い単位を使用しており、コンテナの合計数量に満たない数量のコンテナから品目数量をピックしている場合は、扱い単位フォームが表示されます。[他の扱い単位に追加] フィールドで、品目を既存の扱い単位に追加するかどうかを指定します。[はい] を選択すると、[扱い単位?] フィールドの扱い単位番号をスキャンします。

指定した数量がピックリストの数量より少ない場合、一部ピックを実行しているか確認メッセージが表示される場合があります。このストックポイントから品目をさらにピックするために戻するには、[はい] を

指定します。このストックポイントから品目をさらにピックしない場合は、[いいえ]を指定します。損失資材があるかどうか確認される場合もあります。品目が欠落している場合は、[はい]を指定します。欠落品目は保留保管場所へ移動されます。品目が欠落していない場合は、[いいえ]を指定します。

シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで[はい]を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?]フィールドで[はい]を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 10 [処理]を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## ピックリストを使用しないオーダーに対する品目のピック

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、アウトバウンドトランザクションから構成されています。引当発行はアウトバウンドトランザクションでトランザクションの1つとしてリストされています。

アウトバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [引当発行] を選択します。
- 2 以下の情報を指定します:

[倉庫]

倉庫を指定します。

[オーダー区分]

オーダー区分を指定します。

[ゾーン]

任意では、そのゾーン内の品目のみが表示されているゾーンを指定します。このフィールドは、トランザクションの [ゾーン入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

[元オーダーおよび先オーダー]

[元オーダー] および [先オーダー] フィールドで、そのオーダー上の品目のみを表示するオーダー番号を指定します。任意で、指定済オーダー番号とその間のすべてのオーダー番号を含むオーダーの範囲を特定するために [先オーダー] フィールドに異なるオーダー番号を指定します。

[ワークセンタ]

ワークセンタを指定します。このフィールドは、生産オーダーに対して品目をピックしている場合、およびトランザクションに対して [ワークセンタによるピック] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

[カートの場所]

カートの場所をスキャンします。

- 3 [処理] を選択します。ピックリストが表示されます。
- 4 ピックするオーダー明細を選択します。必要品目が含まれるストックポイントが表示されます。選択したストックポイントの利用可能数が表示されます。
- 5 ピックするストックポイントを選択します。次の情報が表示されます:
  - オーダー番号
  - オーダー位置
  - 必要数量
  - 品目番号と説明
  - 保管場所
  - ロット番号 (該当する場合)
  - 棚卸日 (該当する場合)
- 6 [数量] フィールドで受け入れる数量を指定します。
- 7 [処理] を選択します。

扱い単位を使用しており、コンテナの合計数量に満たない数量のコンテナから品目数量をピックしている場合は、扱い単位フォームが表示されます。[他の扱い単位に追加] フィールドで、品目を既存の扱い単位に追加するかどうかを指定します。[はい]を選択すると、[扱い単位?] フィールドの扱い単位番号をスキャンします。

シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。

- a シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- b [処理]を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y]を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

注: 品目は、ピックまたはバルク保管場所から選択する必要があります。発注先に返品する必要がある場合または再作業が必要な場合、品目は隔離保管場所から選択する必要があります。

## ステージングからの品目の返品

ステージングからの返品トランザクションを使用して、出荷が取消または修正されたときにステージングエリアから在庫品目を返品します。品目返品は、ピックか出庫発行トランザクションによって既に発行されたステージングからのみ実行できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、アウトバウンドトランザクションから構成されています。発送確定から返送は [アウトバウンドトランザクション] でトランザクションの1つとしてリストされています。

アウトバウンドトランザクションでの操作:

- 1 [発送確定から返送] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:

### [倉庫]

品目の返品元となる倉庫を指定します。

### [ステージ場所]

品目の返品元となるステージ場所を指定します。

### [扱い単位]

該当する場合、返品する扱い単位をスキャンします。トランザクションに対して [扱い単位の入力を許可] パラメータを選択している場合のみ、このフィールドが表示されます。

### [品目番号]

該当する場合、返品する品目番号をスキャンします。扱い単位を返品する場合は、このフィールドは読み取り専用になります。

### [シリアル番号]

シリアル番号付在庫それ以外の場合は、このフィールドを空のままにします。扱い単位を返品する場合は、このフィールドは読み取り専用になります。品目がシリアル番号付在庫管理であり、このトランザクションに対して [シリアル番号入力] パラメータを選択している場合のみ、このフィールドが表示されます。

### [ロット番号]

該当する場合は、ロット番号をスキャンします。扱い単位を返品する場合は、このフィールドは読み取り専用になります。このフィールドは品目がロット番号付在庫管理である場合のみ表示されます。

### [棚卸日]

場合によって、棚卸日を指定します。扱い単位を返品する場合は、このフィールドは読み取り専用になります。このフィールドは品目が日付管理される場合のみ表示されます。

### [フリー数量]

返品可能なステージ済数量が表示されます。

### [数量]

在庫に返品する数量を指定します。扱い単位を返品する場合は、このフィールドは表示されません。

### [保管先]

品目を返品する保管場所を指定します。

- 3 [処理] を選択します。
- 4 扱い単位を使用しており、合計数量に満たないコンテナから品目数量を返品している場合は、扱い単位フォームが表示されます。[他の扱い単位に追加] フィールドで、品目を既存の扱い単位に追加する

かどうかを指定します。[はい]を選択すると、[扱い単位?] フィールドの扱い単位番号をスキャンします。

- 5 シリアル管理を手動でスキャンする必要があるか、品目にロット番号を割り当てる必要がある場合は、シリアル/ロット入力画面が表示されます。シリアル/ロット入力画面で、次の情報を指定または確認します。

[品目番号]

品目番号と説明が表示されます。

[残数量]

シリアル番号がロット番号を割り当てる必要がある数量が表示されます。

[シリアルの生成?]

品目のシリアル番号を生成するには、[はい]を選択します。既存のシリアル番号をスキャンするには、[いいえ]を選択します。品目がシリアル管理である場合にのみこのフィールドが表示されます。トランザクションに対するシリアル番号の生成が可能で、シリアル番号はスキャンされていません。

[全シリアル?]

現在のストックポイントにある品目の全シリアル番号をトランザクションに使用するには、[はい]を選択します。このフィールドで [はい] を選択すると、シリアル番号を個別にスキャンする必要がなくなります。品目がシリアル管理であり、ストックポイントの全品目を使用するトランザクションを実行している場合のみ、このフィールドが表示されます。

[ロット番号]

該当する場合、品目に割り当てるロット番号をスキャンします。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。品目がシリアル管理である場合には、最初のシリアル番号をスキャンするとこのフィールドに品目ロット番号が表示されます。

[シリアル番号]

シリアル番号をスキャンします。品目がシリアル管理であり、シリアル番号を新規作成しておらず、[全シリアル?] フィールドで [はい] を選択した場合のみ、このフィールドが表示されます。

[数量]

指定したロット番号に割り当てる数量を指定します。品目がシリアル管理でなく、ロット番号を割り当てる必要がある場合に限り、このフィールドを使用できます。

- 6 [処理] を選択します。スキャンされたシリアル番号またはロット番号が処理されます。スキャンするシリアル番号またはロット番号がまだある場合は、ここでスキャンを行います。オプションで、[X] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号を表示します。オプションで、[Y] を押してスキャンしたシリアル番号またはロット番号をリセットすると、再度スキャンできるようになります。

## ラベルの印刷

多くの Warehouse Mobility トランザクションでラベル印刷が可能です。トランザクションに対して [ラベル印刷] パラメータが選択されていると、トランザクション完了時点でラベルの印刷処理を開始します。扱い単位、カンバン、複数シリアル番号品目、複数ロット番号品目のラベルの印刷には、基本ラベルとは異なる別の印刷プロセスがあります。

95 ページの「基本ラベルの印刷」を参照してください。

95 ページの「扱い単位、カンバン、複数シリアル番号品目、複数ロット番号品目のラベルの印刷」を参照してください。

## 基本ラベルの印刷

1 ラベル印刷画面で、以下の情報を特定します。

[プリンタ]

プリンタを選択します。

[箱毎のラベル]

箱毎に印刷するラベルの数を指定します。

[ラベル名]

印刷予定のラベル名が表示されます。任意で、別のラベル名を選択します。

[残数量]

印刷予定の残りのラベル数が表示されます。

[箱の数]

ラベルを印刷する箱の数を指定します。

[箱毎の数量]

箱毎の品目の数量を指定します。

オプションでは、[X] を押して [箱の数] および [箱毎の数量] フィールドを消去し、[残数量] フィールドをリセットします。

2 [印刷] を選択します。

## 扱い単位、カンバン、複数シリアル番号品目、複数ロット番号品目のラベルの印刷

1 ラベル印刷画面で、以下の情報を特定します。

[プリンタ]

プリンタを選択します。

[ラベル数]

印刷予定のラベル数が表示されます。任意では、別の数量を選択します。

[ラベル名]

印刷予定のラベル名が表示されます。任意で、別のラベル名を選択します。

2 [印刷] を選択します。

## ラベルの再印刷

- 1 ツールバーから [ラベル再印刷] ボタンを選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します:
  - [ユーザ ID]  
あなたのユーザ IDが表示されます。
  - [日付]  
現在の日付が表示されます。
  - [要求 ID]  
任意で、再印刷するラベルの要求 ID を指定します。
  - [トランザクション名]  
任意で、再印刷するラベルを検索するためのトランザクション名を指定します。
- 3 [検索] を選択します。複数のラベルが検索された場合、再印刷するラベルを選択して、[次] を選択します。
- 4 以下の情報を指定または確認します:
  - [プリンタ]  
プリンタを選択します。
  - [トランザクション名]  
ラベルの印刷対象となったトランザクション名が表示されます。
  - [ラベル名]  
ラベル名が表示されます。
  - [コピー数]  
印刷するラベルの数を指定します。
- 5 [再印刷] を選択します。

## ジョブの開始

単一のジョブの開始、またはワークセットが有効になっている従業員の場合、ワークセットを開始して、ワークセットへジョブを追加し複数のジョブを同時に開始することができます。このトランザクションは従業員またはチームとして使用できます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

- 97 ページの「単一のジョブの開始」を参照してください。
- 98 ページの「間接ジョブをワークセットに追加」を参照してください。
- 99 ページの「オーダまたはプロジェクトのジョブをワークセットに追加」を参照してください。

100 ページの「ワークセットの開始」を参照してください。

## 単一のジョブの開始

- 1 従業員 ID またはバッジ番号をスキャンしてから、[次] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します：

### [従業員]

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

### [本日/今週の時間]

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間数が表示されます。

### [現行ジョブ数]

現在作業中のジョブが表示されます。

### [新規ジョブタイプ]

労務報告を行っているジョブのタイプと、必要に応じて数量を選択します。

### [オーダー番号]

オーダー番号またはプロジェクト番号をスキャンします。

### [作業]

必要に応じて、作業番号、労務ライン、労務ラインを指定します。

### [段取?]

このジョブが段取処理を指しているか指定します。

### [タスク]

必要に応じて、タスクを指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [タスク入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

### [機械]

必要に応じて、機械を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [機械入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

### [ワークセンタ]

必要に応じて、作業が実行された場所を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [ワークセンタ入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

### [時間労務タイプ]

必要に応じて、時間の記録方法を指定します。たとえば、[通常]、[残業]、[倍額残業] です。このフィールドは、トランザクションに対して [時間労務タイプ入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

### [原価構成要素]

必要に応じて、報告時間に対して使用する原価構成要素を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [原価構成要素] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

- 3 [処理] を選択します。

## 間接ジョブをワークセットに追加

1 従業員 ID またはバッジ番号をスキャンしてから、[次] を選択します。

2 以下の情報を指定または確認します：

[従業員]

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

[開始済ジョブ]

自分、あるいは自分のチームがある場合はそのチームが現在作業中のジョブの番号が表示されま  
す。

[本日/今週の時間]

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間  
数が表示されます。

[現行ジョブ数]

現在作業中のジョブが表示されます。作業中のジョブが複数ある場合は、ジョブの番号が表示されま  
す。

[ワークセット停止]

現在のワークセットを停止するかどうかを指定します。[はい] を選択すると、現在のワークセットが停  
止されて、追加しているジョブが新しいワークセットに追加されます、

[新規ジョブタイプ]

[間接] を選択します。

3 以下の情報を指定または確認します：

[従業員]

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

[開始済/開始中ジョブ]

スラッシュの左側に自分、あるいは自分のチームがある場合はそのチームが現在作業中のジョブの  
番号が表示されます。ワークセットに待機中でまだ開始していないジョブの番号は、スラッシュの右側  
に表示されます。

[本日/今週の時間]

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間  
数が表示されます。

[ジョブ区分]

開始するジョブ区分が表示されます。

[段取?]

このジョブが段取処理を指しているか指定します。

[タスク]

該当する場合は、タスクが表示されます。

[機械]

必要に応じて、機械を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [機械入力] パラメータ  
が選択されている場合にのみ利用できます。

**[ワークセンタ]**

必要に応じて、作業が実行された場所を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [ワークセンタ入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

**[時間労務タイプ]**

必要に応じて、時間の記録方法を指定します。たとえば、[通常]、[残業]、[倍額残業] です。このフィールドは、トランザクションに対して [時間労務タイプ入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

**[原価構成要素]**

必要に応じて、報告時間に対して使用する原価構成要素を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [原価構成要素] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

- 4 ワークセットにジョブを追加するには、[追加] を選択します。ワークセットが現在実行中の場合は、ジョブが開始されます。
- 5 オプションで、ワークセットを開始するには、[F2] キーを押します。

## オーダーまたはプロジェクトのジョブをワークセットに追加

- 1 従業員 ID またはバッジ番号をスキャンしてから、[次] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します：

**[従業員]**

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

**[開始済ジョブ]**

自分、あるいは自分のチームがある場合はそのチームが現在作業中のジョブの番号が表示されません。

**[本日/今週の時間]**

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間数が表示されます。

**[現行ジョブ数]**

現在作業中のジョブが表示されます。作業中のジョブが複数ある場合は、ジョブの番号が表示されません。

**[ワークセット停止]**

現在のワークセットを停止するかどうかを指定します。[はい] を選択すると、現在のワークセットが停止されて、追加しているジョブが新しいワークセットに追加されます。

**[新規ジョブタイプ]**

開始するオーダー区分またはプロジェクトを選択します。

**[オーダー番号]**

オーダー番号またはプロジェクト番号をスキャンします。[新規ジョブタイプ] フィールドで間接を選択する場合は、このフィールドは表示されません。

**[作業]**

必要に応じて、作業番号、労務ライン、労務ラインを指定します。

- 3 [処理] を選択します。ワークセットが現在実行中の場合は、ジョブが開始されます。
- 4 オプションで、ワークセットを開始するには、[F2] キーを押します。

## ワークセットの開始

- 1 従業員 ID またはバッジ番号をスキャンしてから、[次] を選択します。
- 2 以下の情報を確認します。

### [従業員]

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

### [開始済ジョブ]

自分、あるいは自分のチームがある場合はそのチームが現在作業中のジョブの番号が表示され  
ます。

### [本日/今週の時間]

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間  
数が表示されます。

### [現行ジョブ数]

現在作業中のジョブが表示されます。作業中のジョブが複数ある場合は、ジョブの番号が表示され  
ます。

- 3 ワークセットを開始するには、[F2] キーを押します。ワークセットに待機中のジョブがすべて開始され  
ます。

## ジョブを停止

単一のジョブ、またはワークセットが有効になっている従業員の場合はワークセットを停止することができ  
ます。単一のジョブを停止する場合、完了数量を報告できます。このトランザクションは従業員またはチ  
ームとして使用できます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

100 ページの「単一のジョブの停止」を参照してください。

101 ページの「ワークセットの停止」を参照してください。

## 単一のジョブの停止

- 1 従業員 ID またはバッジ番号をスキャンしてから、[次] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します：

**[従業員]**

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

**[本日/今週の時間]**

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間数が表示されます。

**[ジョブ区分]**

作業停止中のジョブ区分が表示されます。

**[オーダ番号]**

停止中のオーダおよびプロジェクト数が表示されます。

**[作業]**

停止中の作業番号、活動ライン、労務ラインを指定します。

**[タスク]**

該当する場合は、タスクが表示されます。

**[オープン数量]**

完了する数量が表示されます。

**[完成数量]**

完了した数量を指定します。

**[不合格数量]**

該当する場合は、不合格とする数量を指定します。

**[理由コード]**

該当する場合は、不合格とする理由を指定します。

**[完了?(Y/N)]**

作業工程、活動ライン、作業ラインが完了すると、[Y]を指定します。作業工程、活動ライン、作業ラインの完了には数量追加が必要である場合は、[N]を指定します。

**3 [処理] を選択します。**

## ワークセットの停止

1 従業員 ID またはバッジ番号をスキャンしてから、[次] を選択します。

2 以下の情報を指定または確認します：

**[従業員]**

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

**[開始済ジョブ]**

自分、あるいは自分のチームがある場合はそのチームが現在作業中のジョブの番号が表示されません。

**[本日/今週の時間]**

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間数が表示されます。

[現行ジョブ数]

現在作業中のジョブが表示されます。作業中のジョブが複数ある場合は、ジョブの番号が表示されません。

[ワークセット停止]

[はい] を選択します。

- 3 [処理] を選択します。

## 経過時間の報告

経過時間トランザクションを使用して、作業と数量をジョブに対して報告します。このトランザクションは従業員またはチームとして使用できます。

このトランザクションは、Time Track モジュールが実装されていない場合にのみ利用できます。

Warehouse Mobility アイコンベースのメニューおよびリストベースのメニューは、作業トランザクションから構成されています。経過時間は [作業トランザクション] でトランザクションの 1 つとしてリストされていません。

経過時間フォームでの操作。

- 1 従業員 ID またはバッジ番号をスキャンしてから、[次] を選択します。
- 2 以下の情報を指定または確認します：

[従業員]

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

[本日/今週の時間]

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間数が表示されます。

[ジョブ区分]

労務報告を行っているジョブのタイプと、必要に応じて数量を選択します。

[オーダ]

オーダ番号またはプロジェクト番号をスキャンします。

[作業]

必要に応じて、作業番号、労務ライン、労務ラインを指定します。

[タスク]

必要に応じて、タスクを指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [タスク入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

[機械]

必要に応じて、機械コードを指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [機械入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

**[ワークセンタ]**

必要に応じて、作業が実行された場所を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [ワークセンタ入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

**[時間労務タイプ]**

必要に応じて、時間の記録方法を指定します。たとえば、[通常]、[残業]、[倍額残業] です。このフィールドは、トランザクションに対して [時間労務タイプ入力] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

**[原価構成要素]**

必要に応じて、報告時間に対して使用する原価構成要素を指定します。このフィールドは、トランザクションに対して [原価構成要素] パラメータが選択されている場合にのみ利用できます。

**[人時間]**

このジョブでの作業時間を指定します。

**[機械時間]**

このジョブでの機械の使用時間を指定します。このフィールドは、[機械] フィールドに値を指定した場合にのみ利用可能です。

3 [次へ] を選択します。

4 以下の情報を指定または確認します：

**[従業員]**

従業員 ID またはバッジ番号が表示されます。

**[本日/今週の時間]**

スラッシュの左側に自分あるいは自分のチームの今日の作業時間数が、右側には今週の作業時間数が表示されます。

**[ジョブ区分]**

ジョブ区分が表示されます。

**[オーダ]**

オーダ番号またはプロジェクト番号が表示されます。

**[作業]**

必要に応じて、作業番号、労務ライン、労務ラインが表示されます。

**[タスク]**

該当する場合は、タスクが表示されます。

**[オープン数量]**

完了する数量が表示されます。

**[完成数量]**

完了した数量を指定します。

**[不合格数量]**

必要に応じて、不良とする数量を指定します。

[理由コード]

必要に応じて、不良の理由コードを指定します。

[完了?(Y/N)]

作業工程、活動ライン、作業ラインが完了すると、[Y]を指定します。作業工程、活動ライン、作業ラインの完了には数量追加が必要である場合は、[N]を指定します。

5 [処理] を選択します。